

令和 7 年度

事業概要



日本赤十字社 福島県支部

Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

はじめに

赤十字事業の推進につきましては、平素から社員の皆様をはじめ、多くの県民の皆様からご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

令和7年度においても、台風や大雨、林野火災、青森県東方沖地震などにより、数多くの大規模な災害が全国各地で発生しました。日本赤十字社では、被災地での医療救護活動や心のケア活動、救援物資の配付、義援金の受付など、被災者の皆さんに寄り添った支援活動を行ってまいりました。

自然災害が頻発化・激甚化し、巨大地震の発生の恐れもある中、福島県支部といたしましては、いかなる状況下においても、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を果たせるよう、災害救護体制の充実・強化を図るとともに、防災教育の一層の普及に力を注いでまいります。

また、国外では、長期化するウクライナ人道危機や中東地域における戦闘の拡大・激化による人道危機が深刻さを増しており、日本赤十字社においても、国際赤十字と連携した幅広い人道支援活動を継続しています。

こうした赤十字活動は、皆様からお寄せいただく活動資金（社資）を財源に行われております。令和7年度におきましても、厳しい社会経済情勢の中、県内各地区・分区をはじめ、有功会、奉仕団等赤十字関係者のご努力とご支援、県内外の多くの皆様からご協力をいただき、計画していた事業を実施することができました。改めて、心から感謝を申し上げます。

また、福島赤十字病院では、地域医療の中核かつ災害拠点病院として、質の高い医療の提供に努めてまいります。福島県赤十字血液センターにおきましても、若年層への積極的な献血推進や輸血用血液の安定供給に、引き続き取り組んでまいります。

日本赤十字社は、令和9年5月に創立150周年を迎えます。

今後とも、支部、病院、血液センターが一丸となって、更なる事業推進に取り組んでまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年8月

日本赤十字社福島県支部

目 次

1	災害救護	1
2	救護看護師の養成	8
3	救急法・健康生活支援講習等の普及	9
4	赤十字奉仕団	14
5	青少年赤十字(JRC)の育成	19
6	社会福祉活動	28
7	国際活動	30
8	広報	32
9	医療事業	34
10	血液事業	37
11	評議員会・監査	40
12	赤十字社員増強運動	41
13	会計報告	47
14	日本赤十字社福島県支部役員名簿	48
	資料編	49

1

災害救護

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字としての本来の使命に根ざした重要な活動であり、国際的にはジュネーブ諸条約や赤十字国際会議の決議に基づき、国内では日本赤十字社法及び同定款に基づき行われている。

また、災害救助法において国及び都道府県の救助活動に協力する義務が規定され、その具体的内容については「内閣府（防災担当）との協定」により取り決めがなされている。さらに、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられている。

これらを踏まえ、日本赤十字社は救護規則、防災業務計画等を定め、医療救護、救援物資の備蓄及び配分、血液製剤の供給、義援金の受付及び配分、その他応急対応に必要な業務のほか、復旧・復興、防災・減災に関する業務を行っている。

1 災害救護

救護班の派遣等を要する救護活動はなかった。

2 救護員の登録

災害に備えて救護班8班を常備し、毎年度更新登録している。

ア 救護員の登録

	医 師	看護師長	看護師	主 事	助産師	薬剤師	災対本部要員	血液供給要員	合 計
日本赤十字社福島県支部		1		7			4		12
福島赤十字病院	33	9	124	67	4	18	20		275
福島県赤十字血液センター				3			9	12	24
合 計	44	9	111	75	4	17	36	23	319

イ 令和7年度常備救護班編成表

	第1救護班	第2救護班	第3救護班	第4救護班
医 師	中島 隆宏	佐藤 法義	井上 卓哉	児玉 健太
看護師長	柳田 美穂	清和 彩子	泉 弘子	鈴木 牧子
看護師	中沢 利樹	成尾ありさ	野木 拓実	東 由香里
	高島 雄一	南 栞	長瀬 海	野地 静香
主 事	横山 剛	中島 良介	三浦 有樹	濱名 正美
	藤橋 伸弘	村上 風太	幕田 高平	佐藤 竜馬
	第5救護班	第6救護班	第7救護班	第8救護班
医 師	阪本 貴之	菅野有紀子	片岡 政雄	多田 靖宏
看護師長	鈴木 安英	武田 里美	武井 明美	國分 朋子
看護師	三浦 愛	清野 薫	佐々木莉乃	菊地悠示郎
	近野 直人	寺島真由子	伊藤紗也加	上杉 梢
主 事	菅野 直樹	金原 昭世	今野 大輝	小河原貴之
	三浦 義喜	三浦 友輔	相澤 浩樹	

薬 剤 師	緑上 淳一 大竹麻衣子 矢葺 優佳 穴戸 若緒	渡部 寿康 寺内優紀恵 猪股 育美	川村 早苗 菊池 洋平 村上 美里	酒井 亮 古賀 彩織 西丸未希翔	佐藤 南 安齋 英里 太田 昂気	井上可奈子 武藤 芳和 横田 有希
-------	----------------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------

支 部 連絡調整員	久保 芳宏 中村 麻佑	松本 琢也 渡邊 絢登	出口 智美 佐々木奈央	野崎 謙司 菊田 祐大	相澤真理子	戸田 真由
--------------	----------------	----------------	----------------	----------------	-------	-------

こころのケア 指 導 者	岩崎 睦子（病院）	高根 晴美（病院）	國分 花子（病院）	菅野 直樹（病院）
	武田 里美（病院）	柳田 美穂（病院）	佐藤 裕子（病院）	中島 良介（病院）
	成澤 裕美（支部）	野崎 謙司（支部）		

ウ 日本DMAT登録者

医 師	遠藤 豪一（統括DMAT） 中村耕一郎 今野 友貴		市川 剛（統括DMAT） 大久保怜子		渡部 研一（統括DMAT）							
看 護 師	奈良輪弘美 梅宮 誠 北原 麻美		泉 弘子 金成 美和 高橋 健太		原田 瑞穂 武田 良平 伊藤紗也加		渡邊あゆみ 鈴木 直人		鈴木 安英 田島 一樹		萩原 暁美 山口 広夢	
業務調整員	渡部 寿康 松本 琢也		久保 芳宏 酒井 亮		橋本 健一 三浦 有樹		野田 誠 菊地 洋平		野地 幸次 佐久間惟代		野崎 謙司	

エ 福島県DMAT登録者

医 師	
看 護 師	朝倉 恵実 北村 慶 鈴木 彩佳 江畑 聖也 菅野 奏 中沢 利樹
業務調整員	佐藤 隆昭 渡部 凌生 渡辺 源貴 佐藤 竜馬 島田 翔平 三浦 友輔 東海林祐実

オ 日赤災害医療コーディネートチーム

	氏 名	任 命 職		氏 名	任 命 職
医 師	遠藤 豪一	災害医療コーディネーター	医 師	渡部 研一	災害医療コーディネーター
医 師	市川 剛	災害医療コーディネーター	医 師	中村耕一郎	災害医療コーディネーター
医 師	大久保怜子	災害医療コーディネーター	看 護 師	安達 明美	コーディネートスタッフ
看 護 師	渡邊あゆみ	コーディネートスタッフ	看 護 師	奈良輪弘美	コーディネートスタッフ
看 護 師	鈴木 安英	コーディネートスタッフ	看 護 師	泉 弘子	コーディネートスタッフ
看 護 師	武田 里美	コーディネートスタッフ	看 護 師	國分 花子	コーディネートスタッフ
看 護 師	山口 広夢	コーディネートスタッフ	薬 剤 師	渡部 寿康	コーディネートスタッフ
事務職員	久保 芳宏	コーディネートスタッフ	事務職員	野田 誠	コーディネートスタッフ
事務職員	野地 幸次	コーディネートスタッフ	事務職員	松本 琢也	コーディネートスタッフ
事務職員	野崎 謙司	コーディネートスタッフ	事務職員	中島 良介	コーディネートスタッフ
事務職員	三浦 有樹	コーディネートスタッフ			

カ 福島県災害医療コーディネーター

遠藤 豪一 渡部 研一 市川 剛 久保 芳宏

キ 日赤原子力災害医療アドバイザー

中村耕一郎 海藤 隆紀



ク 原子力災害医療派遣チーム研修修了者

医 師	中村耕一郎
看 護 師	山口 広夢 梅宮 誠
診療放射線技師	海藤 隆紀

3 救護訓練及び研修

ア 災害救護訓練

名 称	開 催 日	会 場	参 加 者 (人)
①福島市総合防災訓練	5月10日(土)	福島市	支部2 病院7
②日赤福島県支部災害救護訓練	6月14日(土)	福島県支部	病院55 血セ6 支部11 他病院8
③日赤福島県支部奉仕団災害救護訓練	7月19日(土)	白河市	支部3 奉仕団員43
④福島県災害対策本部図上訓練	7月31日(木)	福島県庁	支部1
⑤大規模地震時医療活動訓練	9月6日(土)	宮城県	支部1 病院5
⑥日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練	10月10日(金)~11日(土)	秋田県	支部5 病院12
⑦北海道・東北ブロック血液センター合同災害対応訓練	10月10日(金)	血液センター	血液センター
⑧福島県総合防災訓練(図上訓練)	10月16日(木)	福島県庁	支部1 病院1
⑨福島県総合防災訓練	10月18日(土)	白河市	支部3 病院6
⑩福島県原子力防災訓練(医療中継拠点設置運営訓練)	11月1日(土)	田村市	支部2 病院2
⑪福島県原子力防災訓練(医療中継拠点設置運営訓練)	11月9日(土)		支部2 病院6
⑫福島県多数傷病者対応訓練	11月7日(金)	浪江町	支部1 病院6
⑬福島県国民保護共同実働訓練	令和8年 1月21日(水)	二本松市	支部1
⑭福島県原子力防災訓練(図上訓練)	1月26日(月)	福島県庁	支部1
⑮福島県原子力防災通信連絡訓練	6月26日(木)	—	支部1
	9月24日(水)		
	令和8年 1月26日(月)		
⑯福島赤十字病院院内災害訓練	2月14日(土)	赤十字病院	病院77 支部1
⑰福島県DMAT衛星電話通信訓練	3月11日(水)	—	支部2 病院3

イ 研修会・会議

名 称	開 催 日	会 場	参 加 者 (人)
①支部災害救護・講習普及担当課長会議	4月17日(木)~18日(金)	本社	支部1
②救護員としての赤十字看護師研修	6月5日(木)・14日(土) 11月11日(火)	病院	病院11
③第1ブロック支部事業推進課長会議	6月12日(木)~13日(金)	北海道支部	支部1
④統括DMAT研修	6月16日(月)~17日(火)	東京都	病院1
⑤原子力災害対応にかかる研修作業部会	6月23日(月)~24日(火)	本社	病院2 支部1
⑥RCA(根本原因分析)を用いた災害関連死対策研修会	7月22日(火)	県立医大	支部1
⑦第1回東北ブロックDMAT技能維持研修	8月7日(木)	仙台市	病院3

名 称	開 催 日	会 場	参 加 者 (人)
⑧第1ブロック赤十字救護班研修会	8月9日(土)～10日(日)	石巻市	支部3 (スタッフ) 病院4 (スタッフ) 支部1 病院6
⑨災害派遣医療チーム研修	8月9日(土)～11日(月)	大阪市	病院4
⑩福島県EMIS研修会	8月18日(月)～21日(木)	Web	支部3 病院8
⑪第1回日赤災害医療コーディネート研修会	8月30日(土)～31日(日)	本社	支部1 (スタッフ) 病院1
⑫原子力災害対応にかかる研修作業部会	9月1日(月)	本社	病院2 支部1
⑬第2回日赤災害医療コーディネート研修会	9月26日(金)～27日(土)	本社	支部3 (スタッフ) 病院1
⑭日本災害医療ロジスティクス研修	9月28日(日)～30日(火)	岩手県	支部1 (講師) 病院2 (講師)
⑮福島県CBRNE研修／実動訓練	10月12日(日)	県立医大駅前 キャンパス	支部1 (講師) 病院1 (講師)
⑯原子力災害対応にかかる研修作業部会	10月27日(月)	本社	支部1 病院1
⑰第3回日赤災害医療コーディネート研修会	11月1日(土)～2日(日)	本社	支部1 (スタッフ) 病院1
⑱原子力災害時の救護研修	11月6日(木)～7日(金)	北海道	病院2 (講師) 支部1 病院5
⑲福島県DMAT研修	11月29日(土)～30日(日)	医大福島駅前 キャンパス	支部1 (講師) 病院5
⑳災害派遣医療チーム研修	12月2日(火)～4日(木)	名古屋市	病院1
㉑日赤災害医療コーディネート研修プログラム検討部会	5月2日(金)	Web	支部1
	6月12日(木)	Web	
	7月14日(月)	本社	
	9月22日(月)	Web	
	12月16日(火)		
	令和8年 1月16日(金)	Web	
	2月20日(金)	Web	
	3月30日(月)	Web	
㉒原子力災害医療アドバイザー会議	令和8年 1月13日(火)～14日(水)	本社	支部1 病院2
㉓防災スペシャリスト養成講座	1月29日(木)～30日(金)	東京都	支部1
	2月18日(水)～19日(木)		
㉔全国原子力災害医療連携推進協議会	2月19日(木)	Web	支部1
㉕救護員を対象としたこころのケア研修	2月21日(土)	赤十字病院	支部1 病院14 血液センター2
㉖福島県災害医療コーディネーター研修	2月21日(土)	医大福島駅前 キャンパス	支部1 (講師) 病院1 (講師) 病院2
㉗福島県災害医療基礎研修	2月1日(日)～28日(土)	Web	支部1 病院1
㉘東日本大震災から15年 本赤十字社特別企画社内講演会	3月3日(火)	本社	支部1 (講師)
㉙福島県防災会議幹事会議	3月10日(火)	書面開催	支部1
㉚福島県救急医療対策協議会	3月16日(月)	Web	支部1 病院1
㉛福島県原子力災害医療対策協議会	3月26日(木)	Web	支部1 病院1
㉜福島県原子力災害時医療連携ネットワーク会議	3月26日(木)	書面開催	支部1
㉝福島県災害医療対策協議会	3月27日(金)	Web	支部1 病院1
㉞福島県防災会議	3月27日(金)	Web	支部1



4 災害弔慰金の贈呈

火災並びに自然災害等による死亡者の遺族代表者に弔慰金10,000円を贈る。

	件 数	金 額
弔 慰 金	13件	160,000円

5 救援物資の配分

「支部災害救援物資取扱要綱」に基づき、以下のとおり配布した。

		前年度 繰 越	本社等 受 入	購 入	戻入等	被 災 者 への配分	他 支 部 への払出	転用等	本年度末 残 数
支部	バスタオル	2,533				109			2,424
本 社	毛 布	5,251				145			5,126
	緊急セット	2,962				72			2,892
	安眠セット	472							472
	タオルケット	889							889

6 災害義援金（国内）受付状況 表中（ ）内は累計

（令和8年3月31日現在）

義 援 金 名	件 数	金 額
①令和6年能登半島地震災害義援金	30 (865)	2,394,576円 (203,521,699円)
②令和6年9月能登半島大雨災害義援金	17 (171)	637,903円 (9,376,346円)
③令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	49 (131)	5,591,976円 (8,048,153円)
④令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	67	197,283円
⑤令和7年台風第8号に伴う災害義援金	58	227,713円
⑥令和7年8月6日からの大雨災害義援金	60	405,058円
⑦令和7年台風第12号災害義援金	40	87,008円
⑧令和7年台風第15号災害静岡県義援金	41	711,858円
⑨令和7年台風第22号及び23号災害義援金	43	142,339円
⑩令和7年11月18日大分県佐賀関の大規模火災義援金	55	592,774円
⑪令和7年青森県東方沖地震義援金	43	190,311円

※災害義援金は、被災都道府県に設置される災害義援金配分委員会を通じて被災者へ全額配分される。

7 赤十字防災ボランティアの養成

ア 福島県支部奉仕団合同災害救護訓練

防災支援奉仕団と地域奉仕団と共に災害時に活動できるよう「福島県支部奉仕団合同災害救護訓練」を県内持ち回りで開催している。（3頁 ア災害救護訓練③）

イ 登録者数

防災ボランティアリーダー 7名
防災ボランティア地区リーダー 138名

8 救護資材

ア 県支部保有の主な救護資材

(令和7年3月31日)

資 材 名	支 部	病 院	地区区分
移 動 式 炊 飯 器	8組		338組
移動式炊飯器(灯油式)	2組		
医 療 セ ッ ト		2組	
携帯用医療セット	1個		
携帯用救護カバン	2個	3個	
医療資器材携行用カバン	16個		
ノート型パソコン	2台	3台	
モバイルプリンター	3台		
プロジェクター	3台		
折りたたみいす	10台		
診 察 台	2台		
トリアージシート	1組	1組	
担 架	24台		73台
ヘ ッ ド ラ ン プ	31台	6台	
災害救援用ハンドビーム	2台		
ラ ン タ ン (15W)	4台	6台	
ランタンスタンド	4台	1台	
投 光 器	3台		20台
移 動 発 電 機	9台		67台
蓄 電 池 (大)	2台		
蓄電池(大)専用ソーラーパネル	2台		
蓄 電 池 (小)	2台	1台	
蓄電池(小)専用ソーラーパネル	2台	1台	
モバイルバッテリー	2台		91台
天 幕 (3間×2間)	12張		7張
〃 (1.5間×2間)	4張		242張
エアータント(4m×5m)	2張	1張	
〃 (6m×6m)	3張		
ワンタッチテント(3m×6m)	5張		310張
ドラッシュテント(フレームテント)XB	1張		
折りたたみ寝台	39台	40台	136台
担 架 ベ ッ ド	2台		
患 者 用 毛 布	50枚	50枚	
自動式ポータブルトイレ	13台		
携 帯 ト イ レ	3個		
ト イ レ 用 テ ン ト	11張		
ス ト ー ブ	4台		
救護所用冷暖房機器	2台		

資 材 名	支 部	病 院	地区区分
救 護 員 作 業 衣 (夏用)	28着	50着	
〃 (冬用)	32着	50着	
ヘルメット	25個	35個	203個
雨 具	98着	25着	
防 寒 衣	16着		
防 寒 服 (上・下)	30着		
救 護 員 用 T シ ャ ツ	130着	200着	
全国救護員用Tシャツ	140着		
ダウンジャケット	25着	20着	
編 上 靴	52足	36足	
防 じ ん ゴ ー グ ル	12個	6個	
寝 袋	25個		
キャンピングマット	27枚		
携 行 バ ッ グ	20個	40個	
携行キャリーバッグ	16個	24個	
救 護 資 材 倉 庫			203棟
ローラーコンベア(電動)	5台		
〃 (手動)	1台		
救 急 車	1台	2台	
医療派遣用自動車	1台	1台	
災 害 救 援 車	8台	1台	115台
普 通 自 動 車	1台		
折りたたみ自転車	1台		
4 折 テ ー ブ ル	4台		
折りたたみリヤカー	1台		
超短波無線機(157MHZ)基地局	1局		
地上移動局(157MHZ)	17局	5局	
超短波無線機(415MHZ)基地局	1局		
地上移動局(415MHZ)	18局	10局	
小電力トランシーバー	27台		
携帯電話・データ端末	8台		
衛 星 携 帯 電 話	6台	5台	
〃 (可換型)	(3台)	(3台)	
〃 (車 載)	(3台)	(2台)	
メ ガ ホ ン (拡声器)	8台		
携 帯 ラ ジ オ	9台		
電 子 血 圧 計	1台		
医 療 セ ッ ト 置 台	3台		



資 材 名	支 部	病 院	地区分区
点 滴 ス タ ン ド	5台		
A E D 一 式	4台		
A E D (携 帯 用) 一 式	6台	1台	112台
災害救護活動用ベスト			245着
D M A T 装 備 一 式		1式	
NBC災害対応除染セッソー式	1式		
防 護 服 セ ッ ト	58組		
デ ジ タ ル 個 人 線 量 計	38個	20個	
空間線量率測定用サーベイメータ		1台	

資 材 名	支 部	病 院	地区分区
身体汚染スクリーニング用GMサーベイメータ		1台	
救 護 用 ヒ ッ プ バ ッ グ	5個	15個	
反 射 チ ョ ッ キ	40着	20着	
担 架 置 台	5組		
救 命 胴 衣	6着		24着
防災ボランティア雨具	50着		
アコーディオンスクリーン	2台		
折畳式ホワイトボード	1台		

イ 災害救護装備の充実

◎地区分区

災害救援物資の輸送等のため各地区・分区に120万円を上限に赤十字救援車購入経費の一部を補助したほか、赤十字救護資材倉庫の更新配置等を実施した。

赤十字救援車配置（助成）	3台	二本松市地区 福島市松川分区 大熊町分区
赤十字救護資材倉庫（更新配置）	1棟	いわき市遠野分区
赤十字救護資材倉庫赤十字マーク張り替え		44地区・分区

◎支部

支部災害対応力の強化のため、本社財源により下記救護資機材を整備した。

衛星電話（ワイドスターⅢ）可搬型	3台	1台は赤十字病院へ配置
衛星電話（ワイドスターⅢ）設置型（車載）	1台	

2

救護看護師の養成

国際的な救護活動、高齢社会への適切な対応ができる優れた看護師を養成するため、赤十字理念を建学の精神としている日本赤十字看護大学等で学び、赤十字に対し深い理解と熱意をもつ学生に奨学金を貸与し、救護看護師を養成している。

① 奨学金貸与

学 校 名	1 年	2 年	3 年	4 年	計
日本赤十字東北看護大学	—	—	2 人	1 人	3 人
日本赤十字看護大学	—	—	—	—	—
日本赤十字北海道看護大学	—	—	—	1 人	1 人
合 計	0 人	0 人	2 人	2 人	4 人

※奨学金貸与額：年間60万円（月額5万円）を上限として貸与している。

② 日本赤十字東北看護大学 赤十字特別推薦

日赤東北看護大学に入学を希望し、福島赤十字病院に看護師として就職を希望する高校生を対象に選考会を行い、福島県支部長より推薦している。（令和7年度応募者なし）

③ 救護員としての赤十字看護師研修

福島赤十字病院に看護師として採用された職員に対して、「救護員としての赤十字看護師」として登録任命されるために必要な知識、技術を習得させることを目的に実施している。

月 日	場 所	参 加 者	内 容
6月 5日(木) 6月14日(土) 11月11日(火)	福島赤十字病院	看護師 11名	赤十字概論 災害看護論 ほか



3

救急法・健康生活支援講習等の普及

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、講習をとおして救急法等の普及に取り組んでいる。

当支部においても、「救急法」「水上安全法」「幼児安全法」「健康生活支援講習」の各講習を実施し、事故防止や人命を救う方法、健康で安全に暮らすための知識と技術の普及に努めている。

1 講習会の実施状況

ア 救 急 法

日常生活における事故防止の知識と、思わぬ事故や急病の人を医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当などの知識と技術を普及している。

心肺蘇生、AED（自動体外式除細動器）の使い方、気道異物除去の方法を学ぶ救急法基礎講習（4時間）を実施した。



講 習 種 別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救 急 法	指導員養成講習（30時間）	1	17	16	13
	基礎講習（4時間）	29	483	483	483
	救急員養成講習（12時間）	19	214	211	211
	短期講習	203	5,969	—	—
	計	252	6,683	710	707

イ 水上安全法

水と親しみ水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、救命手当などの知識と技術を普及している。



講 習 種 別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
水上安全法	救助員養成Ⅰ（14時間）	1	9	9	7
	救助員養成Ⅱ（12時間）	—	—	—	—
	短期講習	61	2,183	—	—
	計	62	2,192	9	7

ウ 幼児安全法

幼児期に起こりやすい事故とその予防、万一事故が起きた場合の心肺蘇生法とAEDの使い方、気道異物除去など救命手当及び応急手当の仕方、かかりやすい病気と看病の仕方などの知

+ 3 救急法・健康生活支援講習等の普及

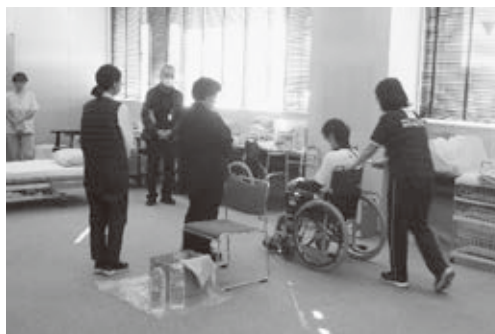
識と技術を普及している。

短期講習「災害時の乳幼児支援」においては、バンダナ、レジ袋を使用したきずの手当てを行った。

講 習 種 別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習（12時間）	2	42	42	42
	短期講習	48	714	—	—
	計	50	756	42	42



幼児安全法



健康生活支援講習

Ⅱ 健康生活支援講習

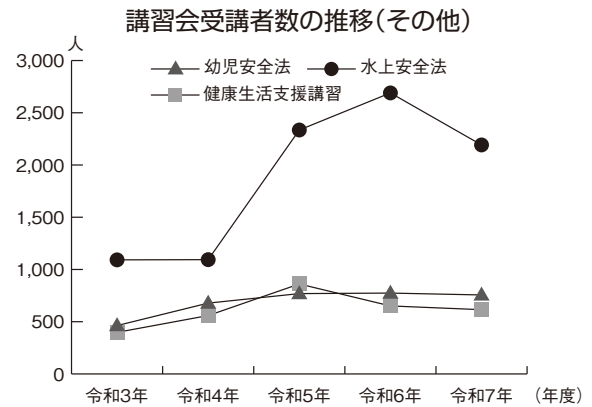
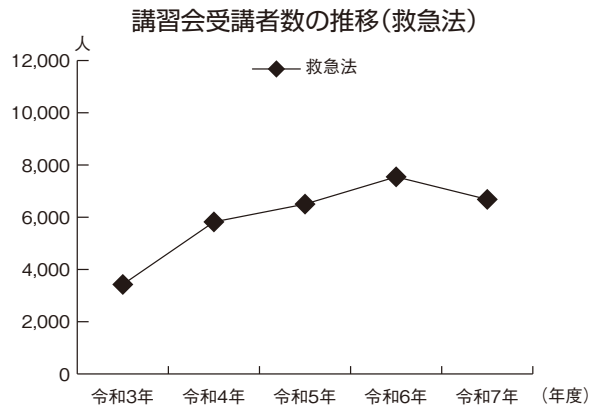
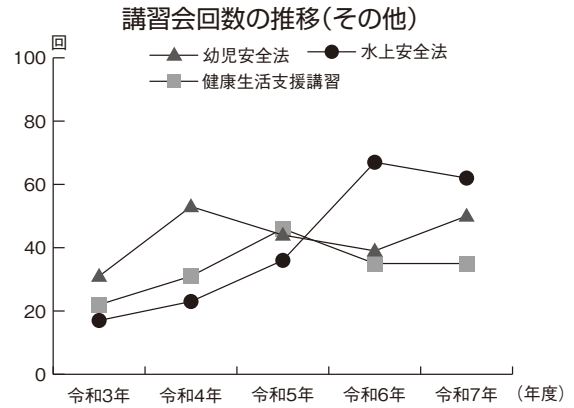
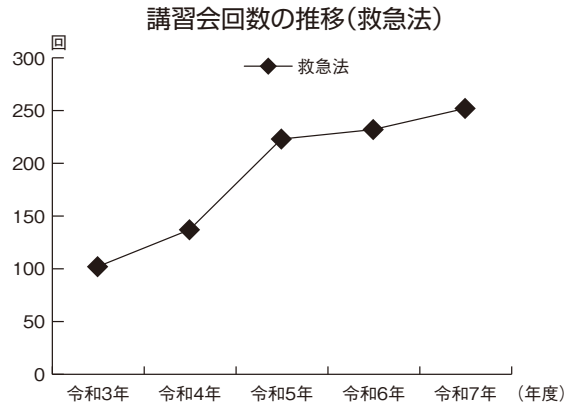
誰もが迎える高齢期を、すこやかに迎えるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援、自立に向け役立つ介護技術を普及している。

「認知症サポーター養成講座」は、福島市と共同開催し地域のボランティア活動につながる事が期待される。

講 習 種 別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
健 康 生 活 支 援 講 習	支援員養成講習（12時間）	5	58	57	57
	短 期	避難生活支援講習	4	64	—
		認知症サポーター養成講座	10	135	134
		その他	16	358	—
	計	35	615	191	191

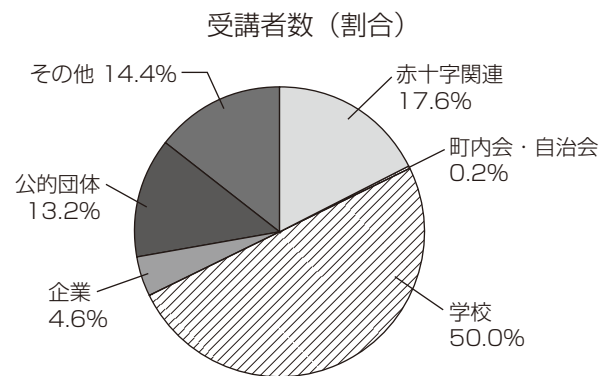
2 講習会の開催（合計）

講 習 種 別	実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救 急 法	252	6,683	710	707
水 上 安 全 法	62	2,192	9	7
幼 児 安 全 法	50	756	42	42
健 康 生 活 支 援 講 習	35	615	191	191
計	399	10,246	952	947



3 講習会受講者内訳

	受講者数 (人)	割合 (%)
赤十字関連	1,808	17.6
町内会・自治会	18	0.2
学 校	5,119	50.0
企 業	469	4.6
公 的 団 体	1,352	13.2
そ の 他	1,480	14.4
計	10,246	100.0



4 青少年赤十字 (JRC) 加盟校を対象とした救急法等講習会

対 象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・指導者協議会

内 容：心肺蘇生・AEDについて学ぶ救急法短期講習や水の事故から身を守るための着衣泳等を開催した。

	開催数(回)	受講者(人)
小 学 校	59	2,878
中 学 校	34	1,602
高 等 学 校	16	196
特別支援学校	2	87
指導者協議会	10	154
合 計	121	4,917



JRC加盟校を対象とした救急法等講習会

5 防災セミナー

本社で作成した「赤十字防災教育プログラム」や自主プログラムを合わせて「防災セミナー」として地域防災に役立つ知識や技術の普及を行った。

防災セミナー開催状況

内 容	回 数(回)	受講数(人)
災害への備え（講演）	44	—
災害エスノグラフィー	1	—
災害図上訓練（DIG）	8	—
避難所運営ゲーム（HUG）	22	—
災害時の応急手当	8	—
非常食作り	42	—
おうちのキケン	1	—
災害時に身近な物で役立つ技術	72	—
災害時のこころのケア	7	—
その他	10	—
合 計	129	6,251

※1度の開催で複数内容を実施する場合があることから、各回数を足しあげた数字とは異なる。

※防災教室で行った避難所運営ゲーム5件も含む。

6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力

行政、企業などが実施したイベントにブースを出展し、防災思想の普及を図った。

8/2(土)	福島地方気象台「お天気フェア」
11/8(土)	福島県「そなえる・ふくしま2025」

7 会議・研修会

名 称	月 日	場 所	参加人数等
①赤十字講習担当課長会議	4月18日(金)	Web	支部1
②赤十字健康生活支援講習講師研究会	6月18日(水)～19日(木)	本社	病院1
③第1回赤十字講習推進委員会	8月28日(木)～29日(金)	本社	支部1
④赤十字健康生活支援講習講師養成講習	9月17日(水)～19日(金)	大阪府	支部1
⑤赤十字講習担当者研修会	9月29日(月)～30日(火)	本社	支部1
⑥健康生活支援講習講師研修会	12月2日(火)～3日(水)	本社	病院1・支部1
⑦幼児安全法講師研修会	12月3日(水)～4日(木)	本社	支部1
⑧救急法講師研修会	12月18日(木)～19日(金)	東京都	支部2・ボランティア1
⑨水上安全法講師研修会	令和8年 2月4日(水)～5日(木)	東京都	支部2
⑩第2回赤十字講習推進委員会	2月12日(木)	Web	支部1
⑪救急法等指導員研修会	3月25日(水) 3月28日(土)～29日(日)	福島県支部	センター3・支部11・ ボランティア60



8 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数

(令和8年3月31日現在)

講習会	ボランティア(人)			職員(人)			合計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
救急法	51	33	84	16	9	25	68	41	109
水上安全法	11	2	13	2	0	2	13	2	15
幼児安全法	17	13	30	6	3	9	23	16	39
健康生活支援講習	2	13	15	1	10	11	3	23	26

9 救急法等講師名簿

各講習会の指導員を養成する指導員養成講習の指導者となる。

(令和8年3月31日現在)

講習会	氏名				
救急法	久保 芳宏	野崎 謙司	石田 政幸		
水上安全法	久保 芳宏	野崎 謙司			
幼児安全法	武田 玲子	車田 真美			
健康生活支援講習	武田 玲子	車田 真美	岩崎 睦子	成澤 裕美	菅野勇一郎

4 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、明るく住みよい地域社会を築きあげていくために結成された地域奉仕団、青年や学生の若い力を社会のために役立てようと結成された青年奉仕団、特技を活かして社会に奉仕する特殊奉仕団が、共通の理念にたってそれぞれの持ち味を活かした奉仕活動を実践している。また、災害時には住民の立場になり奉仕活動を行うため、日頃から訓練を行って災害に備えている。



方部赤十字奉仕団連絡協議会会長会議



会津地区奉仕団リーダー研修会

1 結成状況

(令和8年3月31日現在)

奉仕団種別	団 数	構 成		
		男(名)	女(名)	計(名)
地域赤十字奉仕団	104	894	6,836	7,730
青年赤十字奉仕団	4	54	83	137
特殊赤十字奉仕団	34	899	181	1,080
計	142	1,847	7,100	8,947

2 福島県支部委員会

赤十字奉仕団福島県支部委員会は、方部赤十字奉仕団連絡協議会会長と特殊奉仕団から県賛助奉仕団委員長、県防災支援連絡協議会会長で構成し、福島県支部管内の各奉仕団の活動に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

福島県支部委員会役員

(令和8年3月31日現在)

役 員	氏 名	所 属
委 員 長	佐原和佳子	喜多方市赤十字奉仕団委員長
副委員長	宮島登喜子	田村町赤十字奉仕団委員長
副委員長	松田 貞夫	福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長

3 方部赤十字奉仕団連絡協議会

方部名	令和7年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和7年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和7年度 方部会長奉仕団名
福島	湯野 赤十字奉仕団	須賀川・岩瀬	須賀川市 赤十字奉仕団	両沼	三島町 赤十字奉仕団
伊達	霊山町 赤十字奉仕団	白河市	白河 赤十字奉仕団	南会津	檜枝岐村 赤十字奉仕団
安達	二本松市 赤十字奉仕団	西白河	泉崎村 赤十字奉仕団	いわき	常磐方部 赤十字奉仕団
郡山	田村町 赤十字奉仕団	東白川	矢祭町 赤十字奉仕団	相馬	原町 赤十字奉仕団(暫定)
田村	三春町 赤十字奉仕団	会津若松市	会津若松市 赤十字奉仕団	双葉	休止
田村市	大越町 赤十字奉仕団	北会津	猪苗代町 赤十字奉仕団	県賛助奉仕団	福島県委員長
石川	浅川町 赤十字奉仕団	喜多方	喜多方市 赤十字奉仕団	県防災支援連協	表郷防災支援 赤十字奉仕団

4 赤十字奉仕団指導講師（9名）

(令和8年3月31日現在)

福島市	松田 貞夫	福島市	福地 敏教	会津若松市	栗城 美保
福島市	土屋 悦男	福島市	岸波 庄一	いわき市	飯間香保子
福島市	佐藤 敦子	郡山市	安田 悠子	相馬市	高橋 誠

5 会議、研修会

名 称	開催日	会 場	参 加 者 (人)
①第1回青年赤十字奉仕団全国協議会	5月17日(土)	WEB会議	青奉1
②奉仕団委員長会議	5月26日(月) ～27日(火)	郡山市	奉仕団員、指導講師、 支部職員
③奉仕団支部指導講師会議	5月26日(月)	郡山市	支部指導講師、支部職員
④第1ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	6月7日(土) ～8日(日)	盛岡市	青奉1、支部職員1
⑤奉仕団担当者研修会	6月16日(月)	本社	支部職員1
⑥奉仕団中央委員会	7月3日(木) ～4日(金)	本社	県委員長1
⑦全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	7月7日(月) ～9日(水)	本社	全国賛助顧問1 賛助奉県委員長1
⑧日本赤十字社福島県防災支援奉仕団連絡協議 会総会	7月19日(土)	白河市	奉仕団員39、支部職員2
⑨全国ボランティアリーダー研修会	8月23日(土) ～25日(月)	本社	参加なし
⑩第1回これからの赤十字奉仕団等ボランティ ア検討委員会	9月3日(水)	本社	支部職員1
⑪支部奉仕団リーダー研修会	11月12日(水) ～13日(木)	会津若松市	奉仕団員11、指導講師、 支部職員

+ 4 赤十字奉仕団

名 称	開催日	会 場	参 加 者 (人)
⑫支部奉仕団リーダー研修会	12月17日(水) ～18日(木)	いわき市	奉仕団16、指導講師、 支部職員
⑬第2回青年赤十字奉仕団全国協議会	令和8年 1月17日(土)	Web	青奉1
⑭赤十字奉仕団支部指導講師研修会	2月13日(金) ～15日(日)	本社	指導講師1
⑮日本赤十字社福島県防災支援奉仕団連絡協議 会役員会	3月1日(日)	福島市	奉仕団員18、支部職員1
⑯方部赤十字奉仕団連絡協議会長会議	3月4日(水)	福島市	連絡協議会長13、 支部職員
⑰全国賛助奉仕団協議会第2回役員会	3月10日(火) ～11日(水)	本社	参加なし
⑱第2回これからの赤十字奉仕団等ボランティ ア検討委員会	3月24日(火)	文書審議	支部職員1

6 協 力

赤十字新聞発送作業協力（県北賛助奉仕団、日赤福島ボランティア会）

毎月2日間 延べ24日 302人

7 赤十字奉仕団研修会（講習会を除く）

赤十字奉仕団指導講師等の協力を得て、赤十字奉仕団の研修会を開催している。

赤十字奉仕団名	内 容	派遣講師(人)
好間地域赤十字奉仕団	基礎研修1	指導講師1
好間地域赤十字奉仕団	防災セミナー 防7：HUG（避難所運営ゲーム）	支部職員1
郡山市赤十字奉仕団	基礎研修3	指導講師1
郡山市赤十字奉仕団	防災セミナー 防7：HUG（避難所運営ゲーム）	支部職員2
郡山市赤十字奉仕団	炊き出し2、災害時に身近な物で役立つ技術	指導員1
国見町赤十字奉仕団	基礎研修2	指導講師1
国見町赤十字奉仕団	防災セミナー 防1：災害への備え、 防2：災害時の救急法	支部職員1
月舘赤十字奉仕団	防災セミナー 防1：災害への備え、 災害時に身近な物で役立つ技術	支部職員1
月舘赤十字奉仕団	防災セミナー 防1：災害への備え	支部職員1
湯野赤十字奉仕団	防災セミナー 防7：HUG（避難所運営ゲーム）	支部職員1
遠野方部赤十字奉仕団	防災セミナー 防7：HUG（避難所運営ゲーム）	支部職員1
青少年赤十字賛助奉仕団	防災セミナー 防7：HUG（避難所運営ゲーム）	指導員1 支部職員1
青少年赤十字賛助奉仕団	炊き出し1、災害時に身近な物で役立つ技術	指導員1
南会津方部赤十字奉仕団連絡協議会	防災セミナー 防6：DIG（災害図上訓練）	支部職員1
矢吹町中畑赤十字奉仕団	防災セミナー 防1：災害への備え、 災害時に身近な物で役立つ技術、 炊き出し1	指導員1
浪江町赤十字奉仕団	炊き出し1、災害時に身近な物で役立つ技術	指導員1
浪江町赤十字奉仕団	炊き出し1	指導員1
南相馬市小高赤十字奉仕団	炊き出し1、2	支部職員1
南相馬市小高赤十字奉仕団	防災セミナー 防2：災害時の救急法	指導員1



赤十字奉仕団名	内 容	派遣講師(人)
石川町赤十字奉仕団	防災セミナー 防1：災害への備え、 防5：防災ボランティアのための こころのケア	支部職員 1
南相馬市鹿島赤十字奉仕団	炊き出し2、災害時に身近な物で役立つ技術	支部職員 1
平田村赤十字奉仕団	炊き出し 1	指導員 1
桑折町赤十字奉仕団	炊き出し 1、災害時に身近な物で役立つ技術	支部職員 1
田村市都路町赤十字奉仕団	炊き出し 1、2、災害時に身近な物で役立つ技術	指導員 1
柳津町赤十字奉仕団	炊き出し 1、2、災害時に身近な物で役立つ技術	支部職員 1
富久山町赤十字奉仕団	防災セミナー 防7：HUG（避難所運営ゲーム）	支部職員 1
原町・鹿島・小高赤十字奉仕団	防災セミナー 防6：DIG（災害図上訓練）	支部職員 1
霊山町赤十字奉仕団	炊き出し 1、災害時に身近な物で役立つ技術	支部職員 1
埴田町赤十字奉仕団	防5：防災ボランティアのためのこころのケア	支部職員 1
棚倉町赤十字奉仕団	防災セミナー 防1：災害への備え、 防5：防災ボランティアのための こころのケア	指導員 1
西郷村赤十字奉仕団	炊き出し2、災害時に身近な物で役立つ技術	支部職員 1
伊達赤十字奉仕団	炊き出し 2	指導講師 1
船引町赤十字奉仕団	炊き出し2、災害時に身近な物で役立つ技術	支部職員 1 指導講師 1
石川方部赤十字奉仕団連絡協議会	みんなでわけよう	支部職員 1
大越町赤十字奉仕団	炊き出し 1	指導講師 1
玉川村赤十字奉仕団	炊き出し 1、2、災害時に身近な物で役立つ技術	支部職員 1
南会津町田島赤十字奉仕団	炊き出し 1、2	指導講師 1
喜多方方部赤十字奉仕団連絡協議会	みんなでわけよう	支部職員 1

8 令和7年度赤十字ボランティアのつどい（第14回）

開 催 日	令和7年10月22日(水)
場 所	郡山市・ビッグパレットふくしま
参 加 者	赤十字奉仕団員、有功会員、関係者 約430名
内 容	1 表彰 奉仕団功労表彰 4件、奉仕団員等奉仕者功労表彰 336件 有功会役員等功労表彰 10件 地元紙2紙に受章者名簿を掲載 2 講演 「紛争下の“生きる力”に寄り添う～イスラエル・ガザ人道危機から見る赤十字の役割～」 赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表部 広報統括官 眞壁 仁美 氏



佐藤副支部長から表彰伝達



講演

9 令和7年度赤十字奉仕団と団員数現況

(令和8年3月末現在)

地域奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	飯野町	0	58	58
2	川俣町	0	150	150
3	平野 (たんぼほうし団)	0	20	20
4	飯坂	0	79	79
5	湯野	0	56	56
6	福島希望	2	20	22
7	吉井田	0	8	8
8	伊達	4	34	38
9	保原町	3	184	187
10	梁川町	0	5	5
11	月館町	0	144	144
12	霊山町	0	54	54
13	桑折町	1	38	39
14	国見町	500	1,500	2,000
15	大玉村	0	31	31
16	二本松市東和	0	71	71
17	二本松市	0	32	32
18	安達	0	33	33
19	二本松市岩代	0	32	32
20	本宮市本宮	3	68	71
21	本宮市白沢	0	46	46
22	郡山市	10	25	35
23	田村町	0	44	44
24	日和田町	0	24	24
25	富久山町	3	33	36
26	須賀川市	15	119	134
27	鏡石町	0	26	26
28	天栄村	6	24	30
29	三春町	0	43	43
30	小野町 (すみれ会)	0	36	36
31	都路町	0	48	48
32	船引町	0	39	39
33	大越町	15	12	27
34	滝根町	0	25	25
35	常葉町	14	27	41
36	浅川町	1	17	18
37	玉川村	2	53	55
38	平田村	7	11	18
39	古殿町	2	29	31
40	石川町	2	27	29
41	白河	96	39	135
42	大信	2	54	56
43	白河市表郷	8	24	32
44	白河市ひがし	3	3	6
45	三神	0	22	22
46	矢吹町	0	38	38
47	中畑	0	42	42
48	泉崎村	0	103	103
49	西郷村	0	142	142
50	中島村	0	15	15
51	棚倉町	0	46	46
52	矢祭町	0	43	43
53	塙町	3	185	188
54	鮫川村	4	42	46
55	会津若松市	10	578	588
56	西会津	0	38	38
57	山都町	14	32	46
58	喜多方市	0	41	41
59	高郷町	0	23	23
60	塩川町	3	11	14

No	奉仕団名	男	女	計
61	熱塩加納町	26	39	65
62	北塩原村	18	35	53
63	会津坂下町	9	47	56
64	柳津町 (ひまわり会)	0	52	52
65	湯川村	0	17	17
66	会津美里町本郷	16	29	45
67	会津美里町高田	1	41	42
68	新鶴地区	0	31	31
69	金山町	0	38	38
70	昭和村	0	26	26
71	三島町	0	20	20
72	北会津	5	28	33
73	猪苗代町	19	14	33
74	磐梯町	2	27	29
75	河東町	2	20	22
76	南会津町田島	2	134	136
77	只見町 (ともしび会)	2	120	122
78	下郷町	0	47	47
79	檜枝岐村	0	18	18
80	南会津町南郷	休団中		
81	南会津町館岩	12	12	24
82	南会津町伊南	13	16	29
83	平方部	4	145	149
84	内郷方部	0	88	88
85	常磐方部	0	30	30
86	小名浜方部	0	133	133
87	勿来方部	0	92	92
88	いわき市四倉方部	0	88	88
89	いわき市遠野方部	0	117	117
90	好間地域	0	32	32
91	原町	0	42	42
92	鹿島	0	49	49
93	小高	2	19	21
94	相馬市	1	19	20
95	新地町	0	81	81
96	飯館村	3	14	17
97	大熊町	休団中		
98	広野町	2	30	32
99	川内村	0	140	140
100	浪江町	2	14	16
101	富岡町	16	29	45
102	双葉町	休団中		
103	檜葉町	休団中		
104	葛尾村	4	17	21
計①		894	6,836	7,730

青年奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島県立医科大学学生	2	42	44
2	福島青年	35	24	59
3	福島学院大学	4	13	17
4	日本大学工学部	13	4	17
計②		54	83	137

特殊奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島県赤十字安全	58	40	98
2	福島赤十字語学	1	0	1
3	いわき芸能	2	11	13
4	福島赤十字病院	3	11	14
5	日赤福島ボランティア会	18	17	35
6	会津若松市赤十字 防災ボランティア	休団中		
7	福島県あん摩マッサージ 指圧・はり・きゅう	19	6	25
8	県北地区賛助	122	30	152
9	県中地区賛助	145	18	163
10	県南地区賛助	124	17	141
11	会津地区賛助	97	5	102
12	いわき地区賛助	21	7	28
13	相双地区賛助	105	7	112
計③		715	169	884

特殊奉仕団 (アマ無線・防災支援奉仕団)

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島アマ無線	23	1	24
2	会津アマ無線	5	0	5
3	表郷防災支援	9	0	9
4	矢吹アマ無線	5	0	5
5	下郷町アマ無線	17	0	17
6	白沢アマ無線 (信馬ハムクラブ)	7	0	7
7	安達防災支援	1	0	1
8	郡山アマ無線	9	1	10
9	広野町アマ無線	9	1	10
10	田村市大越アマ無線	2	0	2
11	勿来アマ無線	5	1	6
12	白河アマ無線	5	0	5
13	石川町アマ無線	13	0	13
14	大玉アマ無線	11	2	13
15	いわきアマ無線	4	1	5
16	二本松防災支援	9	0	9
17	小高アマ無線	8	0	8
18	飯館アマ無線	5	0	5
19	河東防災支援無線	17	3	20
20	岩代アマ無線	5	0	5
21	北会津防災支援	15	2	17
計④		184	12	196

合計①～④	1,847	7,100	8,947
-------	-------	-------	-------

5

青少年赤十字(JRC)の育成

青少年が赤十字の精神に基づき、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の実践活動を通して、社会に貢献できる人間の育成を目指し、小・中・高等学校に組織され、学校教育の一環として活動を進めている。〔JRC：Junior Red Cross〕

① 加盟学校数とメンバー数

(令和7年9月1日現在)

	学校数(校)	メンバー数(名)	県内加盟率(%)
幼稚園	12	299	—
小学校	368	67,257	98.9
中学校	197	35,143	95.6
高等学校	32	4,105	33.7
特別支援学校	5	416	18.5
義務教育学校	10	2,351	100.0
専修学校	1	110	—
計	625	109,681	86.2

(計の県内加盟率は幼稚園と専修学校を除く)



② 青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数

【幼稚園】

地区名	園数	男	女	計	指導者数
福島	7	70	62	132	44
西白河	1	63	60	123	12
相馬	4	24	20	44	21
計	12	157	142	299	77

【小学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
福島	44	5,526	5,408	10,934	878
伊達	17	1,250	1,248	2,498	280
安達	25	2,163	2,072	4,235	357
郡山	51	6,410	6,242	12,652	1,031
岩瀬	21	2,067	2,040	4,107	386
石川	7	510	451	961	93
田村	14	1,112	1,119	2,231	231
西白河	26	2,312	2,329	4,641	438
東白川	8	622	627	1,249	117
会津若松・北会津	21	1,813	1,724	3,537	338
耶麻	19	786	780	1,566	201
両沼	12	607	581	1,188	123
南会津	14	348	367	715	177
相馬	23	2,127	1,951	4,078	439
双葉	7	216	243	459	97
いわき	59	6,201	6,005	12,206	1,254
計	368	34,070	33,187	67,257	6,440

【中学校】

地 区 名	学 校 数	男	女	計	指導者数
福 島	22	2,390	2,220	4,610	399
伊 達	8	676	634	1,310	146
安 達	11	982	918	1,900	194
郡 山	26	3,306	3,173	6,479	433
岩 瀬	11	1,069	961	2,030	207
石 川	5	361	360	721	51
田 村	9	656	614	1,270	136
西 白 河	13	1,286	1,138	2,424	289
東 白 川	4	264	277	541	32
会津若松・北会津	12	1,560	1,440	3,000	218
耶 麻	10	577	542	1,119	147
両 沼	8	412	368	780	118
南 会 津	7	231	213	444	51
相 馬	11	939	936	1,875	192
双 葉	6	148	104	252	32
い わ き	34	3,332	3,056	6,388	394
計	197	18,189	16,954	35,143	3,039

【高等学校】

地 区 名	学 校 数	男	女	計	指導者数
県 北	6	33	105	138	15
県 南	15	1,638	1,294	2,932	211
会 津	5	52	60	112	11
いわき・相双	6	455	468	923	38
計	32	2,178	1,927	4,105	275

【特別支援学校】

地 区 名	学 校 数	男	女	計	指導者数
県 北	1	25	17	42	66
県 南	3	243	126	369	135
いわき・相双	1	4	1	5	10
計	5	272	144	416	211

【義務教育学校】

地 区 名	学 校 数	男	女	計	指導者数
福 島	1	430	376	806	70
郡 山	2	211	193	404	80
岩 瀬	1	128	122	250	43
会津若松・北会津	2	197	171	368	20
両 沼	1	156	167	323	52
相 馬	1	39	36	75	24
双 葉	2	65	60	125	63
計	10	1,226	1,125	2,351	352

【学校別】

区 分	学校数	男	女	計	指導者数	県内の状況（令和7年度）				※1全国の状況（令和7年度）	
						学校加盟率（%）	児童生徒加入率（%）	※2全学校数（校）	※2全児童生徒数（人）	学校加盟率（%）	児童生徒加入率（%）
幼稚園	12	157	142	299	77						
小学校	368	34,070	33,187	67,257	6,440	98.9	84.5	372	79,571	37.3	31.3
中学校	197	18,189	16,954	35,143	3,039	95.6	84.3	206	41,706	35.2	30.6
高等学校	32	2,178	1,927	4,105	275	33.7	10.2	95	40,365	34.7	13.6
義務教育学校	10	1,226	1,125	2,351	352	100.0	90.6	10	2,595	39.5	29.7
特別支援学校	5	272	144	416	211	18.5	17.0	27	2,444	20.9	16.6
専修学校	1	63	47	110	5						
計	625	56,155	53,526	109,681	10,399	86.2	65.6	710	166,681	36.0	26.6

（計の学校加盟率と児童生徒加盟率は幼稚園と専修学校を除く）

※1 日本赤十字社青少年赤十字ボランティア課 資料から抜粋
※2 福島県企画調整部統計課編「令和7年度学校基本調査速報」から抜粋

3 青少年赤十字研究推進校の指定

青少年赤十字活動の振興を目的に、加盟校の中から小・中各1校を研究推進校に指定している。指定校は、3年間にわたり研究推進に取り組み、3年目に指導者研修会と学校公開で研究内容を発表する。



◎令和6～8年度
只見町立明和小学校・南会津町立南会津中学校

4 令和7年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員

役職名	氏 名	学 校 名	役職名	氏 名	学 校 名
会 長	穂積 浩	福島市立福島第一小学校	監 事	新田 勇雄	三春町立三春小学校
副 会 長	高宮 裕	郡山市立明健小学校	監 事	石川 貴義	南相馬市立大甕小学校
副 会 長	飯塚 敏明	只見町立只見小学校	監 事	本田 哲朗	福島成蹊高等学校
副 会 長	高野 敦史	福島県立郡山高等学校			

5 令和7年度各地区指導者協議会長

地区名	氏 名	学 校 名	地区名	氏 名	学 校 名
福 島	穂積 浩	福島市立福島第一小学校	田 村	新田 勇雄	三春町立三春小学校
伊 達	五十嵐隆之	国見町立国見小学校	西 白 河	佐藤 康二	白河市立表郷小学校
安 達	安藤 靖	本宮市立岩根小学校	東 白 川	本田 栄敏	矢祭町立矢祭中学校
郡 山	高宮 裕	郡山市立明健小学校	会津若松・北会津	古川 潔	猪苗代町立猪苗代第二小学校
小中事務局校	平野 美和	郡山市立大槻小学校	耶 麻	鶴巻 厚保	喜多方市立山都中学校
岩 瀬	阿部 浩幸	須賀川市西袋第一小学校	両 沼	長澤 敏行	三島町立三島学校
石 川	川野辺勝也	古殿町立古殿小学校	南 会 津	飯塚 敏明	只見町立只見小学校

+ 5 青少年赤十字(JRC)の育成

地区名	氏 名	学 校 名
相 馬	石川 貴義	南相馬市立大甕小学校
双 葉	奥山 吉範	広野町立広野小学校
い わ き	白土 勲	いわき市立長倉小学校
県 高 校	高野 敦史	福島県立郡山高等学校

地区名	氏 名	学 校 名
県 北	本田 哲朗	福島成蹊高等学校
県 南	中村 充幸	福島県立須賀川創英館高等学校
会 津	吉田 洋子	福島県立会津学鳳高等学校
いわき・相双	太田 隆明	福島県立いわき総合高等学校

6 会議、研修会

名 称	開 催 日	会 場	参加者等
①JRC担当者会議	4月18日(金)	福島県支部	Web会議
②JRC県指導者協議会総会・研修会(第1回)	5月7日(水)	福島県支部	各地区会長
③青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会	5月30日(金)～6月1日(日)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	教員 明和小・南会津中より
④県高校指導者協議会総会	6月10日(火)	けんしん郡山文化センター	高校JRC担当教諭
⑤県高等学校JRC連絡協議会春季総会	6月10日(火)	けんしん郡山文化センター	高校生メンバー・教諭
⑥県高校リーダーシップ・トレーニングセンター	7月3日(木)～5日(土)	磐梯青少年交流の家	高校生メンバー・教諭
⑦全国青少年赤十字指導者協議会総会	7月4日(金)	本社 他	参加なし
⑧県青少年赤十字福島県指導者講習会・研修会	8月5日(火)～6日(水)	郡山市青少年会館	教員
⑨青少年赤十字研究会(指導主事対象)	8月6日(水)	本社	県義務教育課指導主事
⑩青森県・福島県青少年赤十字高校生メンバー交流研修会	10月17日(金)～18日(土)	青森県立木造高等学校 他	高校生メンバー・教諭
⑪第1ブロック青少年赤十字指導者研修会	10月23日(木)～24日(金)	日赤山形県支部	指導者協議会会長 職員
⑫国際交流事業(海外メンバー受入れ)	10月25日(土)～29日(水)	福島市・会津若松市ほか	海外メンバー・ 高校生メンバー・教諭
⑬国際交流事業(国際交流集会)	10月30日(木)～11月3日(月)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	高校生メンバー・教諭
⑭JRC県指導者協議会総会・研修会(第2回)	11月6日(木)	福島県支部	各地区会長
⑮県高等学校JRC連絡協議会秋季総会・県大会	11月7日(金)	けんしん郡山文化センター	高校生メンバー・教諭
⑯福島・栃木 高校生メンバー交流会	11月8日(土)	コミュタン福島	高校生メンバー・教諭
⑰JRC県指導者協議会役員会	令和8年 2月5日(木)	福島県支部	指導者協議会役員等
⑱JRCスタディー・センター	3月22日(日)～26日(木)	山中湖村東照館	高校生メンバー・教諭

7 県内リーダーシップ・トレーニング・センターの開催

リーダーシップ・トレーニング・センターは、青少年赤十字の教育プログラムのひとつであり、集団生活を伴う学習活動の場で赤十字と青少年赤十字について理解を深めるとともに、リーダーとして活躍できる児童・生徒の育成を目指している。

【小中】

福島・伊達・安達(7月、本宮市中央公民館) 郡山(7月、安積総合学習センター)
 西白河・東白川(7月、表郷小) 北会津・会津若松(7月、磐梯青少年交流の家)
 両沼(7月、会津自然の家)



【高校】

県高校（7月、磐梯青少年交流の家） 県北（8月、日赤県支部） 県南（8月、須賀川市民交流センター） いわき・相双（7月、いわき市生涯学習センター）

8 指導者研修会・講習会等の開催

地 区	開 催 日	会 場	参加人数	主 な 内 容 等
福 島	4月24日(木)	福島一小	29名	総会・研修会
伊 達	4月25日(金)	国見小	18名	総会・研修会
安 達	4月11日(金)	安達公民館	36名	総会
福伊 安	7月31日(木)	本宮市中央公民館	84名	研修会
郡 山	4月9日(水)	安積総合学習センター	90名	総会
岩 瀬	5月13日(火)	岩瀬コミュニティーセンター	40名	総会・研修会
石 川	6月2日(月)	古殿小	14名	総会・研修会
田 村	5月1日(木)	田村市中央公民館	23名	総会
//	6月11日(水)	田村市中央公民館	24名	研修会
西 白 河	4月2日(水)	表郷小	40名	総会・研修会
//	7月25日(金)	表郷小	37名	研修会
東 白 川	4月2日(水)	表郷小	12名	総会
//	7月25日(金)	表郷小	37名	研修会
北 会 津 会 津	5月7日(水)	河東学園	36名	総会・研修会
//	7月31日(木)	磐梯青少年交流の家	37名	研修会
耶 麻	4月3日(木)	喜多方一小	30名	総会
両 沼	4月3日(木)	高田小	22名	総会
//	7月31日(木)	会津自然の家	53名	研修会
南 会 津	4月3日(木)	御蔵入交流館	21名	総会
//	7月24日(木)	田島小	25名	研修会
相 馬	4月24日(木)	相馬市民会館	40名	総会・研修会
い わ き	5月21日(水)	長倉小	20名	総会
//	7月31日(木)	長倉小	20名	研修会
県 高 等 学 校	6月10日(火)	けんしん郡山文化センター	88名	総会・研修会
県 高 北 校	5月12日(月)	福島県支部	33名	総会・研修会
//	6月14日(土)	福島県支部	38名	研修会
//	10月14日(火)	福島県支部	33名	総会・研修会
//	3月14日(土)	福島県支部	33名	研修会

地 区	開 催 日	会 場	参加人数	主 な 内 容 等
県 高 南 校	5月30日(金)	須賀川創英館高校	33名	総会・研修会
//	11月4日(火)	須賀川創英館高校	33名	総会・研修会
会 高 津 校	4月9日(水)	会津学鳳高校	16名	研修会
いわき相双高	7月8日(火)	いわき市生涯学習プラザ	64名	総会・研修会
//	11月14日(金)	いわき市生涯学習プラザ	46名	総会・研修会

9 福島県青少年赤十字賛助奉仕団

「賛助奉仕団」とは、小・中・高等学校で青少年赤十字活動の指導にあたっていた元教員が、青少年赤十字の普及発展に寄与することを目的に活動しているボランティア組織である。

ア 団員数 6地区 合計 719名 (令和7年8月1日)

県 北 157名	県 中 165名	県 南 141名
会 津 108名	いわき 31名	相 双 117名

イ 会議等

会 議 名	場 所	参 加 者	開 催 日
①県賛助奉仕団総会	日赤県支部	各地区代議員	5月27日
②全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	日赤本社	全国役員、県委員長等	7月7日～9日
③青少年赤十字100文字作品審査協力	日赤県支部	団員	9月～12月
④NHK海外たすけあい街頭募金	県内主要市	団員	12月
⑤全国賛助奉仕団協議会役員会	日赤本社	参加なし	令和8年 3月10日、11日

10 青少年赤十字防災教育プログラムの普及

地域奉仕団・賛助奉仕団と連携し、青少年赤十字加盟校や各地区関係機関への周知・啓発を図り、県内各地で防災教室を実施している。





防災教室実施状況（児童・生徒向け防災教育プログラム）

	開催日	対象	実施内容	児童生徒	教職員	保護者等	参加者計
※	1 5月15日(木)	勿来第三小学校	きけんはっけん、いえまですごろく	23	5		28
	2 5月20日(火)	滝根中学校	避難所運営ゲーム	70	10		80
	3 6月10日(火)	柏城小学校	風水害の授業、防災グッズづくり	74	3		77
	4 6月19日(木)	伊達東小学校	きけんはっけん、災害時シミュレーション	53	3		56
	5 6月20日(金)	伊達東小学校	きけんはっけん、防災グッズづくり	32	11		43
	6 6月25日(水)	小名浜西小学校	防災かるた	143	9		152
※	7 6月26日(木)	安積第三小学校	きけんはっけん、いえまですごろく、自分だったらどうする	405	20		425
	8 6月30日(月)	余目小学校	避難所運営ゲーム	26	2		28
	9 7月2日(水)	明和小学校	きけんはっけん、風水害の授業、竹ひごタワー	42	12		54
	10 7月11日(金)	都路小学校	きけんはっけん、災害時シミュレーション	32	12	22	66
	11 7月14日(月)	南会津中学校	竹ひごタワー	57	10		67
	12 7月15日(火)	掛田小学校	防災かるた、いえまですごろく、防災グッズづくり	131	10		141
	13 7月16日(水)	双葉中学校	災害時シミュレーション、応急手当、新聞紙スリッパづくり	14	15		29
	14 7月31日(木)	郡山市地区トレセン	いえまですごろく、防災グッズづくり	21	17		38
	15 8月27日(水)	大信中学校	風水害の授業	88	14		102
	16 8月30日(土)	平窪公民館	非常食体験、いえまですごろく、竹ひごタワー	30	5		35
	17 9月1日(月)	牧本小学校	きけんはっけん、いえまですごろく	51	12		63
	18 9月3日(水)	福島第一小学校	ドローイングチャレンジ	90	15		105
	19 9月4日(木)	船引南小学校	いえまですごろく	17	1		18
	20 9月5日(金)	小名浜第一小学校	いえまですごろく、新聞紙スリッパづくり	55	3		58
	21 9月9日(火)	高野小学校	風水害の授業	10	1		11
	22 9月11日(木)	綴小学校	いえまですごろく	32	3		35
	23 9月13日(土)	植田公民館	きけんはっけん、竹ひごタワー	21	10	18	49
	24 9月18日(木)	本宮小学校	風水害の授業、竹ひごタワー	69	11		80
	25 9月19日(金)	泉崎第二小学校	災害時シミュレーション、防災グッズづくり	131	20	98	249
	26 9月20日(土)	富久山公民館	竹ひごタワー、ドローイングチャレンジ、防災グッズ作り	21	6		27
※	27 9月24日(水)	大野小学校	いえまですごろく、自分だったらどうする	48	3		51
	28 9月29日(月)	半田譲芳小学校	DIG（災害図上訓練）※教員対象		7		7
	29 9月30日(火)	東部こども公民館	災害時シミュレーション	27	6	11	44
	30 10月1日(水)	鮫川小学校	風水害の授業、ドローイングチャレンジ	18	4		22
	31 10月3日(金)	二本松北小学校	きけんはっけん、風水害の授業	114	8		122
	32 10月7日(火)	西袋第二小学校	いえまですごろく	15	2		17
	33 10月23日(木)	石神第二小学校	竹ひごタワー	58	4		62
	34 10月28日(火)	会津若松第六中学校	非常食体験、ドローイングチャレンジ	73	12	8	93
	35 10月29日(水)	仁井田小学校	非常食体験、竹ひごタワー	42	2		44
	36 10月31日(金)	会津若松第二中学校	災害への備え	263	20		283
※	37 11月8日(土)	相馬市教育委員会 そうまジュニア防災マスター	非常食体験、いえまですごろく、応急手当	26	48	8	82
	38 11月11日(火)	小名浜西小学校	1年生防災かるた、6年生災害時シミュレーション	142	9		151
	39 11月11日(火)	いいたて希望の里学園	防災講話	82	25		107

	開催日	対象	実施内容	児童生徒	教職員	保護者等	参加者計
※ 40	11月14日(金)	岩江中学校	自分だったらどうする	117	14		131
41	11月15日(土)	水保小学校	親子で学ぶ防災セミナー	57	15	59	131
42	11月16日(日)	白河実業高校	非常食体験、災害時シミュレーション	36	2	1	39
43	11月17日(月)	石井小学校	いえまですごく、自分だったらどうする	60	6		66
44	11月18日(火)	浅川小学校	きけんはっけん、ドローイングチャレンジ、いえまですごく	115	10		125
45	12月2日(火)	行徳小学校	風水害の授業	53	2		55
46	12月4日(木)	小名浜第一中学校	非常食体験、竹ひごタワー	176	11		187
47	令和8年 1月17日(土)	藤原公民館	竹ひごタワー、身近なもので応急手当	24	3	2	29
48	1月27日(火)	油井小学校	自分だったらどうする	66	5		71
49	2月3日(火)	二本松第二中学校	竹ひごタワー、いえまですごく	65	6		71
50	2月27日(金)	檜枝岐小学校・中学校	いえまですごく	46	29		75
51	3月7日(土)	中央台公民館	竹ひごタワー、災害時シミュレーション	15	4		19
52	3月10日(火)	大越中学校	いえまですごく、災害時シミュレーション、ひなんじょたいけん	67	8		75
				3,543	505	227	4,275

※防災セミナーのメニューも含む

11 青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集

青少年赤十字加盟校の児童生徒を対象にテーマを設け、「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を詩や100文字に表現した作品の募集を行っている。

ア 募集期間 令和7年4月1日～令和7年9月5日

イ 募集テーマ 詩「いのちの詩・愛の詩」

100文字提案

「わたしがだれかのためにできること」

「世界の見知らぬ友へ」(小・中学生のみ)

「世界の問題についての私の提案」(高校生のみ)

「夢をかなえるために」

ウ 応募校数・応募点数 41校 1861点

エ 作品審査会(最終) 令和7年11月5日(水)

場所：日本赤十字社福島県支部

オ 入賞作品 支部長賞 4点

県指導者協議会長賞 1点

県賛助奉仕団委員長賞 1点

学校賞 5校

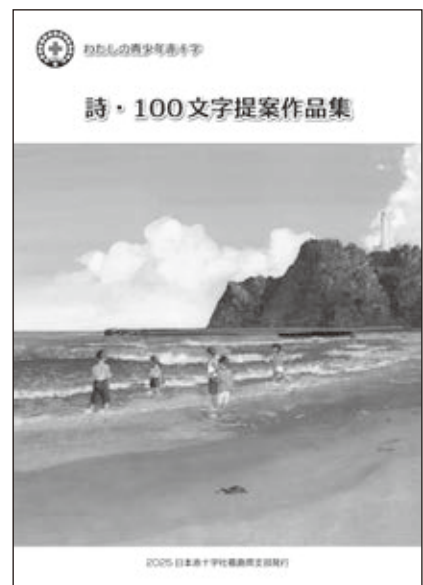
学校奨励賞 6校

優秀賞 13点

佳作 56点

入選 112点

カ 最優秀作品表彰式 令和7年12月25日(木) 日赤福島県支部





12 青少年赤十字国際交流事業

青少年赤十字の実践目標のひとつである「国際理解・親善」の具体的な事業として、本県の青少年赤十字メンバーを海外の赤十字加盟国へ派遣したり、海外の赤十字メンバーの受け入れを行ったりしている。

ア 福島県支部主催 令和7年度青少年赤十字国際交流事業

参加メンバー マレーシア赤新月社 高校生メンバー 2名

福島県高校生JRCメンバー 延べ146名

実施期間 令和7年10月25日(土)～29日(水)

内 容 ・加盟校訪問(福島第一小学校・平工業高校・松韻学園福島高校)

授業参加、部活動参加(JRC、軽音楽、剣道、相撲など)

・震災遺構請戸小学校での研修、東日本大震災・原子力災害伝承館での研修、
コミュタン福島での研修、野口記念館見学 など

イ 日本赤十字社本社主催 令和7年度青少年赤十字国際交流集会

福島県高校生メンバー参加者 2名

開催期間 令和7年10月30日(木)～11月3日(月) 4泊5日

開催場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

内 容 Think globally, Act locally. (地球規模で考え、地域で行動する) というテーマのもと、特に気候変動と人道危機について、自分たちが属する国や地域でどのようにリーダーシップを発揮できるか交流を通して学んだ。



ウ 青少年赤十字活動資金

青少年赤十字メンバー及び賛助奉仕団から「青少年赤十字一円玉募金」の寄託があった。

前年度繰越額	本年度寄託額	本年度使用額	本年度日赤本社送金額	本年度末残高
0円	29,711円	0円	29,711円	0円

14 青少年赤十字活動への関心を広げるための啓発

次の広報誌等を加盟校に配付し、今後の青少年赤十字活動の推進・充実につながるよう啓発した。

- ・「うつくしまJRCフォトニュース」 年3回発行(7月・10月・2月)
- ・「JRCふくしま」 年2回発行(10月・2月)

6

社会福祉活動

日本赤十字社は、社会的な支援を必要とする方がたが個人の尊厳を持って、その人らしい自立した生活を送れること、また、誰もが安心して元気に生活できる社会を目指して、さまざまな社会福祉活動を行っている。

① 高齢者福祉対策事業

高齢者作品展示会支部長顕彰

43地区・分区で開催

② 保健衛生事業

○赤十字健康講演会

開催日	会場	講師	演題	参加人数
5月30日(金)	柳津町 やないづふれあい館	福島赤十字病院 管理栄養士	高齢者の食事について	71
8月4日(月)	会津若松市 会津若松市役所	福島赤十字病院 循環器内科 医師	心臓病のはなし	49
9月2日(火)	須賀川市 須賀川市東コミュニティセンター	福島赤十字病院 理学療法士	これからも元気で過ごすための 生活の工夫と運動	44
9月11日(木)	南相馬市 原町区福祉会館	福島赤十字病院 理学療法士	これからも元気で過ごすための 生活の工夫と運動	44
9月26日(金)	伊達市 保原中央交流館	福島赤十字病院 理学療法士	これからも元気で過ごすための 生活の工夫と運動	34
11月9日(日)	北塩原村 北塩原村役場	福島県赤十字病院 理学療法士	これからも元気で過ごすための 生活の工夫と運動	31
11月10日(月)	福島市 福島市役所 飯野支所	福島赤十字病院 理学療法士	これからも元気で過ごすための 生活の工夫と運動	16
12月11日(木)	二本松市 二本松市安達公民館	福島赤十字病院 薬剤師	正しい薬の知識	43





3 地域高齢者生活支援活動

○にこにこ健康教室

月 日	赤十字奉仕団名	会 場	参加人数
9月17日(水)	鏡石町赤十字奉仕団	鏡石4区集会所	29
10月7日(火)	会津美里町高田赤十字奉仕団	あやめ荘	28
10月28日(火)	日和田町赤十字奉仕団	日和田地域交流センター	35
10月30日(木)	浪江町赤十字奉仕団	浪江町防災センター	9
11月25日(火)	小高赤十字奉仕団	小屋木集落センター	26
令和8年 1月26日(月)	四倉方部地域奉仕団	いわき市立大浦公民館	32
2月13日(金)	原町赤十字奉仕団	上町団地集会所	16
2月17日(火)	原町赤十字奉仕団	北原団地集会所	28

4 福祉団体との連携

○福島県身体障がい者グラウンド・ゴルフ大会へのボランティア派遣

開 催 日	会 場	赤十字奉仕団名	派遣人数
9月19日(金)	福島市十六沼公園	県北地区青少年赤十字賛助奉仕団	3

5 会議・研修会

名 称	月 日	場 所	参加人数等
①地域包括ケアシステム市町村担当者会議	5月13日(火)	Web	支部1
②地域包括ケア担当者会議(第1回)	5月28日(水)	Web	支部1
③地域包括ケア担当者会議(第2回)	11月18日(火) ～19日(水)	本社	支部1

7

国際活動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟および各国赤十字・赤新月社と連携しつつ、様々な国際活動を行っている。

① 第1ブロック支部による国際活動への参加

第1ブロック（北海道・東北6県）の各支部では、資金を拠出し、国際活動に参加しており、下記の救急法普及支援事業や青少年赤十字海外支援事業を推進している。

第一ブロック国際活動参加費		総 額	福島県支部の拠出額
救急法普及支援事業	ラ オ ス	1,500,000円	217,000円
青少年赤十字海外支援事業	バヌアツ	1,500,000円	217,000円
気候変動等レジリエンス強化事業	ルワンダ	1,500,000円	217,000円
気候変動対策事業	アフガニスタン	1,500,000円	217,000円
合 計		6,000,000円	868,000円

② 救援金受付状況（福島県支部取扱分）

救 援 金 名	件 数	金 額
①無指定海外救援金	1	71,077円
②中東人道危機救援金（平成27年度から累計）	2 (30)	71,677円 (415,217円)
③バングラデシュ南部避難民救援金	2	754円
④ウクライナ人道危機救援金	10	70,334円
⑤2025年ミャンマー地震救援金	28	583,085円
⑥2025年アフガニスタン地震救援金	2	10,765円
⑦2025年パキスタン洪水救援金	1	2,797円



3 NHK海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）

【福島県支部実績】

区 分	受付件数	金 額
支部受付	363件	2,087,815円
本社受付（福島県支部扱い）	613件	9,694,937円
合 計	976件	11,782,752円

街頭募金 7市8会場 252,631円

（福島市、郡山市、白河市、会津若松市2会場、南相馬市、相馬市、いわき市）



4 安否調査

日本赤十字社は、赤十字国際委員会を中心に、世界191ヵ国に組織されている各国赤十字・赤新月社との連携によって紛争や災害により行方不明になった家族の消息および安否の調査を行っている。

◎令和7年度 依頼なし

8

広報

社旨普及の広報活動は、赤十字の重要な業務であり、あらゆる機会に「人道・博愛」の精神の普及啓発に努めている。

また、この活動は、赤十字関係者に対する社業推進の状況報告を意味するとともに、広く県民に対する協力支持を要請する啓発活動であり、5月8日の世界赤十字デー、5月の赤十字運動月間を中心に展開している。

本年度の社旨普及、広報活動及び主な刊行物は次のとおり。

① 日赤本社刊行物の配布

赤十字NEWS（毎月1日発行）	25,000部
会員誌「Cross com-BOOK」（年2回発行）	6,200部
青少年赤十字指導情報	1,700部
青少年赤十字機関誌（小）	1,400部
青少年赤十字機関誌（中・高）	1,200部
赤十字この1年（DVD）	

② 支部発行物の作成配布

ア 社員増強用資料	
赤十字社員加入と募集の手引き	14,000部
赤十字のしおり（Q & A）	6,500部
赤十字社員増強運動用チラシ	635,000部
日赤福島県支部広報紙「日赤ふくしま」第50号	371,000部
イ JRC用資料	
青少年赤十字活動4つの勧め 4月号・7月号	メール配信
うつくしまJRCフォトニュース第69号・70号・71号	各2,100枚
JRCふくしま（青少年赤十字福島県指導者協議会発行）第74号	1,800部
// 第75号	1,800部
わたしの青少年赤十字 詩・100文字提案作品集	3,000部

3 ホームページ等の開設

ホームページ

<https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima>

(平成14年3月20日開設、令和3年4月1日リニューアル・URL変更)



インスタグラム

<https://www.instagram.com/nissekifukushima>

(平成29年12月1日開設)



フェイスブック

<https://www.facebook.com/>

日本赤十字社福島県支部-1896501787332037/
(平成29年12月1日開設)



4 新聞・テレビ・ラジオ広報

ア 新聞広告(福島民報社・福島民友新聞社)防災月間(9月)

イ 本社製作テレビCM(FTV・FCT・KFB・TUF)赤十字運動月間(5月)

テレビ局におけるパブリシティの実施(KFB)

ウ ラジオ広告(ラジオ福島)

ラジオ福島「命を守るキャンペーン」協賛

ラジオスポット 20秒×50回(年間)



赤十字は、動いてる!

赤十字は、命を守るために、被災地や災害現場に駆けつけ、被災者への支援活動を行っています。また、防災意識の向上や、災害時の備えの促進など、地域社会の防災力の向上に努めています。

赤十字の活動は、皆さまのご寄付によって支えられています。かけがえのない命を守り続けていくために活動資金へのご協力をお願いします。

【ごあいさつ】
災害の発生時には、被災地や災害現場に駆けつけ、被災者への支援活動を行っています。また、防災意識の向上や、災害時の備えの促進など、地域社会の防災力の向上に努めています。

日本赤十字社 福島県支部 一綱なら、救える。SAVE365

令和7年度赤十字社員増強運動用チラシ



10th 日赤ふくしま

青少年赤十字(JRC)の国際交流事業

日本赤十字社では、青少年赤十字(以下、JRC)の国際交流事業の一つである「国際理解 海外」を推進し、国内外の青少年赤十字メンバーが交流を深めることを目的として、国際交流事業を行っています。

今年度は19の国と地域から、JRCメンバーが令和7年10月24日(金)〜11月3日(月)4日の期間来日し、福島県支部ではグリーンシェパード教育所から2名のメンバーを受け入れました。

来日両名は、福島県支部のJRCメンバーとの交流を深めるために、震災復興や日本文化の紹介、コミュニケーションなどを実施し、福島県支部のJRCメンバーとの交流を深めることができました。

また、県内でのボランティア活動に参加し、日本の地域における文化や習慣の違いなどを学び、交流の機会となりました。

ボランティア活動や、JRCメンバーとの交流など、JRCメンバーが活躍の場を広げ、国際理解を深めることができました。

日本赤十字社は、2027年に150周年を迎えます。

一綱なら、救える。日本赤十字社 福島県支部

支部広報紙「日赤ふくしま」第50号

9

医療事業

日本赤十字社は、全国に90の赤十字病院を有し、各地域の中核医療機関として地域医療に貢献し、救急医療、がん診療、生活習慣病の予防や介護の支援、災害時における国内外への医療チーム派遣など、さまざまな活動を通じて社会に貢献している。

福島赤十字病院は、福島市を中心とする県北医療圏において、救急医療・地域医療・災害医療の中心的役割を担っており、第二次救急指定病院、災害拠点病院（地域災害医療センター）、原子力災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関、地域医療支援病院、紹介重点医療機関に指定されている。

1 医療施設

福島赤十字病院（福島県福島市八島町7番7号）



2 診療科（26科）

内科、リウマチ・膠原病内科、糖尿病・代謝内科、腎臓内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、精神科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経内科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科

3 病床数と職員数

許可病床数 286床〔一般 268床 HCU 12床 感染症 6床〕
職 員 数 612名〔医師 73名（研修医16名含む） 看護職 310名
医療技術職 105名 その他 124名〕

4 患者数

	外 来			入 院		
	令和7年度(人)	令和6年度(人)	前年度比増減(%)	令和7年度(人)	令和6年度(人)	前年度比増減(%)
総 患 者 数	119,446	119,521	0.2	87,445	88,743	△1.5
新 患 者 数	8,155	8,157	0.0	7,238	7,131	1.5
1 日 平 均	497	494	0.6	240	243	△1.2
平均在院日数(一般)				11.3日	11.5日	△0.2日
病 床 稼 働 率				83.9%	86.2%	△2.3%

5 紹介患者数

	令和7年度	令和6年度	前年度比増減
紹介患者数(人)	7,264	7,304	△40
紹介率(%)	129.8	123.2	6.6

6 救急車両による搬入患者数

	令和7年度	令和6年度	前年度比増減
患者数(人)	4,038	4,184	△146
内入院患者数(人)	2,163	2,244	△81

7 手術件数

	令和7年度	令和6年度	前年度比増減
手術数(件)	5,760	5,505	255
内全身麻酔数(件)	2,078	1,902	175

8 医療機器の整備（令和7年度分 主なもの）

品名	規格・型式	台数	設置場所
人工関節手術支援ロボット	MAKO	1	手術室
麻酔管理システム	PrescienOR	1	麻酔科
過酸化水素ガス滅菌装置	V-PROmax2	1	中央材料室
セントラルモニタシステム	CVW-800	1	臨床工学技術課
超音波診断装置(甲状腺検査装置)	Aplio a Verifia CUS-AA000/J5	1	生理検査室
超音波手術器	SONOPET IQコンソール5500	1	手術室
錠剤自動仕分返納装置	Gennie KS-GE48-1J	1	薬剤部
個人用多用途透析装置・透析用水作製装置	DBB-200SI・MJ-PⅡ	1	集中治療室
手術用開創器	オムニトラクトリクターファストシステム 1式	1	手術室
バイポーラ凝固切開装置(JET付)	MALIS・SPL-MLSB2018	1	手術室
システム乾燥器	DRYRUNNER SDR-800S	1	中央材料室
ボディコンポジションアナライザー	InBody BWA2.0S	1	共用
肺機能検査装置スパイロシフト	SP-790COPD	1	生理検査室

9 訪問看護ステーションの運営

訪問延べ回数 3,920回

10 健診センターの運営

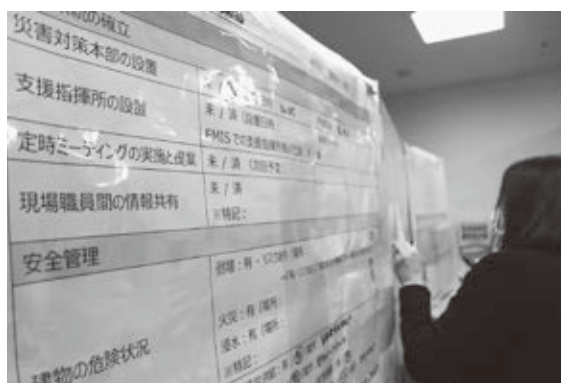
ドック・健診関係

・人間ドック	567名
・市町村民健診	400名
・協会けんぽ生活習慣病予防健診	1,135名
・保健指導	406名
・甲状腺超音波検査（福島県県民健康管理調査）	34名
・福島市4ヵ月検診	17名
・福島市10ヵ月検診	29名
・その他の健診	2,504名

11 災害に備えた取り組み（院内災害訓練）

期 日：令和8年2月13日(金)・14日(土)

内 容：災害発生時において、災害拠点病院として機能するため、関係者が連携して的確に迅速に対応できる体制の確立とマニュアルの検証を行うことを目的に訓練を実施。



1. 災害対策本部運営訓練



2. 多数傷病者受入訓練



3. 放射性物質汚染傷病者対応訓練



4. 非常給食提供訓練

10 血液事業

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいう。

1 献血状況

令和7年度の全血献血量は、200mL換算で対前年度比98.6%の102,159単位であった。
成分献血は対前年度比96.7%、200mL献血については、119.8%、400mL献血は、98.2%であった。
400mL献血比率は、対前年度比0.8ポイント減の95.3%となっている。

単位：バッグ

献血方法	令和7年度			令和6年度			令和5年度	
	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)
成分献血	20,695	28.3%	96.7	21,398	28.8%	103.7	20,639	28.2%
血小板献血	9,407	12.9%	105.2	8,938	12.0%	95.7	9,340	12.8%
血漿献血	11,288	15.5%	90.6	12,460	16.8%	110.3	11,299	15.5%
全血献血	52,315	71.7%	99.1	52,814	71.2%	100.7	52,465	71.8%
400mL献血(ア)	49,844	68.3%	98.2	50,752	68.4%	100.4	50,561	69.2%
200mL献血(イ)	2,471	3.4%	119.8	2,062	2.8%	108.3	1,904	2.6%
合 計	73,010	100.0%	98.4	74,212	100.0%	101.5	73,104	100.0%
全血の単位換算数 【(ア×2)+(イ×1)】	102,159		98.6	103,566		100.5	103,026	
400mL献血比率 【ア/(ア+イ)】	95.3%			96.1%			96.4%	

※令和7年度の400mL献血比率の状況は、医療需要と同程度の約95.3%で推移している。

2 供給状況

令和7年度は、233,930単位（200mL換算）の血液製剤を供給した。
対前年度比については、血小板製剤が97.5%、血漿製剤が97.7%、赤血球製剤が96.1%、
総供給単位の合計で96.9%と、医療機関の需要動向に則し令和6年度と比して減少した。

単位：200mL単位換算

製剤別	令和7年度			令和6年度			令和5年度	
	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)
血小板製剤	107,060	45.8%	97.5	109,770	45.5%	109.6	100,160	44.2%
血漿製剤	27,012	11.5%	97.7	27,661	11.5%	110.9	24,949	11.0%
赤血球製剤	99,858	42.7%	96.1	103,879	43.0%	102.3	101,572	44.8%
合 計	233,930	100.0%	96.9	241,310	100.0%	106.5	226,681	100.0%

※血漿製剤の単位換算は、FFP-LR120を1単位、FFP-LR240を2単位、FFP-LR480を4単位にて算出。

3 推進会議等の開催

会 議 名	期 日	場 所
①令和7年度保健福祉事務所等業務担当課長等会議	4月25日(金)	福島県庁
②令和7年度福島県献血推進協力会総会	未開催	
③令和7年度福島県献血推進協議会	未開催	

4 献血思想の普及啓発・行事

献血思想の普及と献血意識の高揚を図り、献血運動を推進するため、広報活動を実施した。

ア 「愛の血液助け合い運動」の実施

主 催：福島県、各市町村、日本赤十字社福島県支部

期 間：令和7年7月1日～31日

実施内容：ポスター等の広報資材を各保健福祉事務所、市町村に配布、県内各方部において、赤十字奉仕団、青少年赤十字メンバー等と共に献血を呼びかけた。

街頭献血キャンペーン：県内13市で実施



イ 「献血感謝デー」等の開催

令和7年度は、福島センター、いわき出張所、郡山駅前出張所において開催。

場 所	期 間	献血者数
福島県赤十字血液センター	令和8年3月28日(土)、29日(日)の2日間	計266名
福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和8年3月14日(土)、17日(火)、19日(木)、21日(土)の4日間	計219名
福島県赤十字血液センター 郡山駅前出張所	令和8年2月9日(月)～20日(金)の平日9日間	計446名

※いわき出張所の開所日は毎週 火・木・土曜日

ウ 夏休み血液センター親子見学会

令和7年度は、会津出張所、いわき出張所にて開催。

場 所	期 間	参 加 者
福島県赤十字血液センター	未開催	
福島県赤十字血液センター 会津出張所	令和7年8月20日(水)、21日(木)の2日間	計23名
福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和7年8月5日(火)	計10名



エ キャンペーン

①「全国学生クリスマス献血キャンペーン2025」

主 催：全国学生献血推進実行委員会

期 日：令和7年12月1日～12月31日

月 日	場 所	献血者数
12月14日(日)	イオンいわき店（バス2台）	138名
12月20日(土)	JR福島駅東口広場	46名
12月21日(日)	JR福島駅東口広場	36名
12月24日(水)	猪苗代町役場（バス2台）	103名



②令和7年「はたちの献血」キャンペーン

主 催：厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

期 日：令和8年1月1日～2月28日

月 日	場 所	献血者数
2月1日(日)	イオンいわき店	73名



⑤ 骨髄ドナーの登録者受入及び登録状況

骨髄移植推進財団が推進する骨髄バンク事業のうち、日本赤十字社は造血肝細胞提供支援機関の指定を受け、骨髄提供希望者の登録管理業務を行っている。

骨髄バンク集団登録説明会及び献血併行型ドナー登録会は、県骨髄バンク推進協議会と各保健所が中心となり、今年度県内で97回実施され、612人が登録者した。

福島県の総登録者数 13,858人

⑥ 日本赤十字社有功章社員等贈与規則に基づく表彰

ア 献血団体功労

- ①社長感謝状 15団体
- ②金色有功章 16団体
- ③銀色有功章 35団体
- ④支部長感謝状（金枠） 27団体
- ⑤支部長感謝状（銀枠） 7団体

イ 献血推進団体功労

- ①社長感謝状 3団体
- ②金色有功章 1団体
- ③銀色有功章 2団体
- ④支部長感謝状（金枠） 3団体
- ⑤支部長感謝状（銀枠） 2団体

11

評議員会・監査

次のとおり評議員会を開催した。また、業務管理執行及び会計について監査が実施された。

① 評議員会

ア 令和7年6月16日 令和7年度第1回評議員会

- 議案第1号 令和6年度日本赤十字社福島県支部事業報告及び収支決算について
- 議案第2号 令和6年度福島赤十字病院事業報告及び収支決算について
- 議案第3号 令和6年度福島県赤十字血液センター事業報告について

イ 令和8年2月4日 令和7年度第2回評議員会

- 議案第1号 令和8年度日本赤十字社福島県支部事業計画及び収支予算について
- 議案第2号 令和8年度福島赤十字病院事業計画及び収支予算について
- 議案第3号 令和8年度福島県赤十字血液センター事業計画について
- 議案第4号 日本赤十字社福島県支部監査委員の選出について

② 業務管理執行及び会計の監査

令和7年6月2日、3日、監査委員により実施

- 令和6年度日本赤十字社福島県支部の業務管理執行及び会計の監査
- 令和6年度福島県赤十字病院の業務管理執行及び会計の監査
- 令和6年度福島県赤十字血液センターの業務管理執行の監査

12 赤十字社員増強運動

① 赤十字社員増強運動の推進と成果

ア 赤十字社員数

日本赤十字社は、社員をもって組織されており、毎年5月を中心に社員増強運動を展開している。当支部の社員数は下表のとおりである。

	社 員 数
社員（個人）	3,481名
社員（法人）	945法人
合 計	4,426名・法人

※社員…赤十字の理念と活動に賛同いただき、社費として年2,000円以上ご協力の方

イ 社資募集実績額

赤十字の事業は、社員が納入する社費（会費）と寄付金を財源として実施している。令和7年度の社資（社費及び寄付金）実績額は下表のとおりである。

	社資目標額	社資実績額	達 成 率
一 般 社 資	252,873,000円	246,253,908円	97.4%
法 人 社 資	12,000,000円	17,282,071円	144.0%
合 計	264,873,000円	263,535,979円	99.5%

ウ 令和7年度社資実績額表

	地 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
市 地 区	福 島 市 地 区	35,185,000	31,286,976	2,148,798	33,435,774	95.0	34,252,497
	伊 達 市 地 区	9,834,000	10,896,050	0	10,896,050	110.8	9,421,350
	二本松市地区	8,362,000	7,611,300	100,000	7,711,300	92.2	7,777,062
	本 宮 市 地 区	3,426,000	3,402,600	0	3,402,600	99.3	3,426,700
	郡 山 市 地 区	38,328,000	33,892,317	100,000	33,992,317	88.7	36,122,106
	田 村 市 地 区	5,429,000	4,796,700	0	4,796,700	88.4	5,269,373
	須賀川市地区	7,922,000	7,021,290	0	7,021,290	88.6	7,223,190
	白 河 市 地 区	7,307,000	7,054,289	0	7,054,289	96.5	7,544,614
	会津若松市地区	14,980,000	7,526,962	831,697	8,358,659	55.8	13,060,938
	喜多方市地区	6,990,000	5,776,500	0	5,776,500	82.6	6,003,383
	南相馬市地区	6,576,000	6,095,557	0	6,095,557	92.7	6,012,486
	相 馬 市 地 区	4,137,000	3,535,850	20,000	3,555,850	86.0	3,633,629
	いわき市地区	40,055,000	35,999,830	2,500	36,002,330	89.9	37,477,628
	市 地 区 合 計	188,531,000	164,896,221	3,202,995	168,099,216	89.2	177,224,956
	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
県 北	川 俣 町 分 区	2,371,000	2,214,500	0	2,214,500	93.4	2,249,400
	桑 折 町 分 区	1,788,000	1,700,200	0	1,700,200	95.1	1,715,300
	国 見 町 分 区	1,723,000	1,766,513	0	1,766,513	102.5	1,782,128
	大 玉 村 分 区	985,000	1,082,000	0	1,082,000	109.8	1,080,000
	県 北 地 区 計	6,867,000	6,763,213	0	6,763,213	98.5	6,826,828

(単位：円)

	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
県 中	三 春 町 分 区	2,191,000	2,147,000	0	2,147,000	98.0	2,172,500
	小 野 町 分 区	1,580,000	1,471,000	0	1,471,000	93.1	1,390,000
	鏡 石 町 分 区	1,597,000	1,594,550	0	1,594,550	99.8	1,607,550
	天 栄 村 分 区	831,000	829,200	0	829,200	99.8	831,600
	石 川 町 分 区	1,905,000	1,813,809	0	1,813,809	95.2	1,850,867
	玉 川 村 分 区	887,000	844,000	0	844,000	95.2	844,500
	平 田 村 分 区	828,000	771,500	0	771,500	93.2	791,500
	浅 川 町 分 区	849,000	805,500	0	805,500	94.9	827,500
	古 殿 町 分 区	804,000	726,000	0	726,000	90.3	751,000
	県 中 地 区 計	11,472,000	11,002,559	0	11,002,559	95.9	11,067,017
県 南	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	西 郷 村 分 区	2,313,000	2,461,000	7,000	2,468,000	106.7	2,474,500
	泉 崎 村 分 区	798,000	836,500	0	836,500	104.8	818,000
	中 島 村 分 区	570,000	542,500	0	542,500	95.2	543,500
	矢 吹 町 分 区	2,083,000	1,971,400	0	1,971,400	94.6	2,047,300
	棚 倉 町 分 区	2,009,000	1,710,000	0	1,710,000	85.1	1,742,000
	矢 祭 町 分 区	825,000	807,500	0	807,500	97.9	811,000
	塙 町 分 区	1,498,000	1,442,700	0	1,442,700	96.3	1,531,180
	鮫 川 村 分 区	593,000	548,500	0	548,500	92.5	532,000
	県 南 地 区 計	10,689,000	10,320,100	7,000	10,327,100	96.6	10,499,480
会 津	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	磐 梯 町 分 区	529,000	518,500	0	518,500	98.0	517,500
	猪 苗 代 町 分 区	2,529,000	2,472,252	0	2,472,252	97.8	2,645,793
	北 塩 原 村 分 区	527,000	558,300	0	558,300	105.9	372,800
	西 会 津 町 分 区	1,209,000	1,046,186	0	1,046,186	86.5	1,122,015
	会 津 坂 下 町 分 区	1,703,000	1,392,286	0	1,392,286	81.8	1,395,517
	湯 川 村 分 区	438,000	431,000	0	431,000	98.4	432,500
	柳 津 町 分 区	565,000	986,220	0	986,220	174.6	498,500
	会 津 美 里 町 分 区	3,020,000	2,843,260	0	2,843,260	94.1	2,843,860
	三 島 町 分 区	385,000	298,000	1,000,000	1,298,000	337.1	297,058
	金 山 町 分 区	516,000	414,500	0	414,500	80.3	427,000
	昭 和 村 分 区	401,000	373,900	0	373,900	93.2	385,100
	会 津 地 区 計	11,822,000	11,334,404	1,000,000	12,334,404	104.3	10,937,643
南 会 津	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	南 会 津 町 分 区	2,603,000	2,421,500	2,000	2,423,500	93.1	2,372,500
	下 郷 町 分 区	1,088,000	1,035,181	10,000	1,045,181	96.1	1,073,971
	檜 枝 岐 村 分 区	99,000	90,000	0	90,000	90.9	92,000
	只 見 町 分 区	708,000	630,000	0	630,000	89.0	636,000
	南 会 津 地 区 計	4,498,000	4,176,681	12,000	4,188,681	93.1	4,174,471
相 双	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	新 地 町 分 区	1,189,000	1,179,500	0	1,179,500	99.2	1,188,500
	飯 館 村 分 区	310,000	217,000	0	217,000	70.0	173,200
	双 葉 町 分 区	100,000	145,000	0	145,000	145.0	356,000
	檜 葉 町 分 区	733,000	1,639,500	0	1,639,500	223.7	1,806,000
	広 野 町 分 区	500,000	345,000	0	345,000	69.0	507,500
	富 岡 町 分 区	300,000	474,600	10,000	484,600	161.5	706,200
	川 内 村 分 区	344,000	664,000	0	664,000	193.0	759,500
	大 熊 町 分 区	130,000	162,000	0	162,000	124.6	259,000
	浪 江 町 分 区	318,000	272,200	3,000	275,200	86.5	672,600
	葛 尾 村 分 区	70,000	138,000	50,000	188,000	268.6	279,000
	相 双 地 区 計	3,994,000	5,236,800	63,000	5,299,800	132.7	6,707,500
郡 地 区 計		49,342,000	48,833,757	1,082,000	49,915,757	101.2	50,212,939
地 区 分 区 計		237,873,000	213,729,978	4,284,995	218,014,973	91.7	227,437,895



		目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
支 部	支部直接(個人)	15,000,000	32,523,930		32,523,930	216.8	15,656,314
	支部直接(法人)	12,000,000		12,997,076	12,997,076	108.3	18,159,619
支 部 扱 合 計		27,000,000	32,523,930	12,997,076	45,521,006	168.6	33,815,933
		目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
一 般 社 資 合 計		252,873,000	246,253,908		246,253,908	97.4	239,215,386
法 人 社 資 合 計		12,000,000		17,282,071	17,282,071	144.0	22,038,442
福島県支部合計		264,873,000	246,253,908	17,282,071	263,535,979	99.5	261,253,828

エ 社資目標額と実績額の推移

	社資目標額(千円)			社資実績額(円)			達成率 (%)
	一 般	法 人	合 計	一 般	法 人	合 計	
令和7年度	252,873	12,000	264,873	246,253,908	17,282,071	263,535,979	99.5
令和6年度	252,873	12,000	264,873	239,215,386	22,038,442	261,253,828	98.6
令和5年度	259,104	10,000	269,104	275,405,654	29,369,182	304,774,836	113.3
令和4年度	259,104	10,000	269,104	245,546,061	18,051,702	263,597,763	98.0
令和3年度	259,104	10,000	269,104	261,212,637	27,568,950	288,781,587	107.3
令和2年度	259,104	10,000	269,104	301,752,423	21,837,377	323,589,800	120.2
令和元年度	256,299	10,000	266,299	254,272,806	19,467,118	273,739,924	102.8
平成30年度	256,299	10,000	266,299	281,454,989	22,030,260	303,485,249	114.0
平成29年度	256,299	10,000	266,299	267,308,697	28,601,881	295,910,578	111.1
平成28年度	259,335	10,000	269,335	271,623,533	17,108,292	288,731,825	107.2
平成27年度	255,335	8,000	263,335	276,792,490	21,545,712	298,338,202	113.3

2 表 彰

ア 社資功勞表彰

(ア) 紺綬褒章 【1件】(社資500万円以上の個人並びに1,000万円以上の法人)

市 町 村	個 人	法 人
会 津 若 松 市	1	

(イ) 厚生労働大臣感謝状 【3件】

(同一年度内に社資100万円以上の個人並びに300万円以上の法人)

市 町 村	個 人	法 人
須 賀 川 市	3	

(ウ) 社長感謝状 【9件】(金色有功章受章後の社資が50万円以上都度)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市		4
伊 達 市	1	
須 賀 川 市	1	

市 町 村	個 人	法 人
い わ き 市		1
猪 苗 代 町	1	
三 島 町		1

(工) 金色有功章 【9件】 (社資が50万円以上)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	1	1
二 本 松 市	1	
郡 山 市	1	1
須 賀 川 市	1	

市 町 村	個 人	法 人
会 津 若 松 市		1
棚 倉 町	1	
柳 津 町	1	

(ク) 銀色有功章 【17件】 (社資が20万円以上)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	1	
伊 達 市	2	
郡 山 市	2	
田 村 市		2
会 津 若 松 市		3

市 町 村	個 人	法 人
い わ き 市	2	1
西 郷 村		1
北 塩 原 村	1	
会 津 坂 下 町		1
東 京 都 渋 谷 区	1	

イ 業務功労表彰

(カ) 役職功労 【金色有功章11件、銀色有功章8件】

市 町 村	役職	金色有功章	銀色有功章
郡 山 市	分 区 長	1	
郡 山 市	協 賛 委 員	10	2
西 会 津 町	協 賛 委 員		5
柳 津 町	副 分 区 長		1

(キ) 奉仕団 【社長感謝状2件 (金色有功章受章後活動年数10年到達の都度)、
銀色有功章2件 (活動年数15年以上)】

市 町 村	社長感謝状	銀色有功章
福 島 市	1	2
喜 多 方 市	1	

(ク) 奉仕団員等奉仕者 【金色有功章67件 (活動年数20年以上)、
銀色有功章146件 (活動年数15年以上)】

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
福 島 市	1	2
伊 達 市	2	8
二 本 松 市	2	5
本 宮 市	4	10
郡 山 市	1	1
田 村 市	5	
須 賀 川 市		1
白 河 市	1	5
会 津 若 松 市	16	7
喜 多 方 市	1	1
南 相 馬 市	1	11

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
相 馬 市	1	4
い わ き 市	3	15
桑 折 町	4	1
大 玉 村		2
三 春 町		1
小 野 町		1
玉 川 村		5
平 田 村	1	
古 殿 町	1	2
中 島 村		1
矢 吹 町		9



市 町 村	金色有功章	銀色有功章
棚 倉 町		2
塙 町	11	5
鮫 川 村	1	
北 塩 原 村		3
猪 苗 代 町	2	
会 津 坂 下 町		2
柳 津 町	4	2
会 津 美 里 町		3

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
三 島 町		2
金 山 町		4
南 会 津 町	1	17
下 郷 町		3
新 地 町		1
広 野 町	3	4
川 内 村		5
飯 舘 村	1	1

(二) 献血者 【金色有功章131件（献血100回以上）、銀色有功章147件（献血70回以上）】

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
福 島 市	28	30
伊 達 市	5	9
二 本 松 市	2	8
本 宮 市		2
郡 山 市	22	37
田 村 市	3	2
須 賀 川 市	7	8
白 河 市	1	
会 津 若 松 市	8	11
喜 多 方 市	1	3
南 相 馬 市	5	4
相 馬 市	3	
い わ き 市	25	15
川 俣 町		2
桑 折 町	1	1
国 見 町		1
大 玉 村	1	
三 春 町	4	2
小 野 町		2

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
鏡 石 町	1	1
石 川 町		2
平 田 村	1	
中 島 村	1	
矢 吹 町	1	1
棚 倉 町	1	
磐 梯 町	1	
猪 苗 代 町	1	
湯 川 村	1	
柳 津 町		1
会 津 美 里 町	2	1
金 山 町		1
只 見 町		1
檜 葉 町	3	
広 野 町	1	
富 岡 町	1	
川 内 村		1
大 熊 町		1

3 地区有功会の結成状況

有功章受章者を会員とする地区（地方・分区）有功会は、現在15地区で結成されており、赤十字の社旨普及と仲間づくり（社員加入促進）を目的として活動を展開し、赤十字活動の支援組織としての役割を担っている。

（令和7年4月1日現在）

名 称	結 成	会長名	会 員 数					事務局	付記
			社資(個)	社資(法)	業務	献血	合計		
1 福島市地区有功会	H6.4.12	穴澤 正行	17	47	0	0	64	福 島 市 地 区	
2 郡山市地区有功会	H5.5.11	遠藤 君子	15	35	33	0	83	郡 山 市 地 区	
3 いわき市地区有功会	H5.5.25	猪狩 正明	25	50	0	0	75	いわき市地区	
4 会津若松市地区有功会	S46.5.26	宮森 泰弘	35	8	0	0	43	会津若松市地区	
5 喜多方市地区有功会	S49.10.28	武藤 顕夫	70	0	9	31	110	喜多方市地区	
6 田村市地区有功会	H18.3.23	菅野 輝夫	6	2	8	0	16	田 村 市 地 区	
7 相馬市地区有功会	H13.11.22	(欠)	2	3	20	0	25	相 馬 市 地 区	
8 伊達地方有功会	H6.3.24	安田 恭子	2	1	26	2	31	伊 達 市 地 区	
9 安達地方有功会	S44.2.15	渡辺 初治	17	15	35	0	67	二本松市地区	
10 県中地区有功会	H17.6.16	—	—	—	—	—	0	県 中 地 区	休会
11 会津地区有功会	H18.5.31	井関 庄一	51	14	105	187	357	会 津 地 区	
12 南会津地区有功会	S47.4.5	渡部進一郎	24	5	3	0	32	南 会 津 地 区	
13 相馬地方有功会	S41.9.3	濱田 幸政	18	11	0	0	29	相 双 地 区	
14 双葉地方有功会	H6.4.19	—	—	—	—	—	0	相 双 地 区	休会
15 猪苗代町分区有功会	H3.1.29	大坂 恭一	17	0	25	35	77	猪苗代町分区	
会津地区にも重複加入している猪苗代町の会員			17	0	25	35	77		
合 計			282	191	239	220	932		

4 日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等

名 称	月 日	会 場	参加者(人)
①有功会連合会総会	6月20日(金)	いわき市	地区有功会長・事務局27
②紺綬・有功会会長協議会総会	10月3日(金)	佐 賀 県	県有功会連合会長、支部2
③有功会員交流会	11月18日(火)	郡 山 市	有功会員・事務局37
④有功会運営協議会	令和8年3月16日(月)	福島県支部	有功会長・事務局29

5 組織振興課関係会議・研修会等

名 称	月 日	会 場	参加者(人)
①地区・分区担当課長・担当者会議	4月21日(月)	福島市	担当課長・担当者69
②全国赤十字大会	5月13日(火)	東京都	理事・有功会員・奉仕団員・社資協力者・支部20
③地区・分区新任担当者研修会	5月19日(月)	福島県支部	新任担当者40
④第1ブロック組織振興課長会議	7月3日(木)～4日(金)	福島県支部 Web	各支部13
⑤第1ブロック組織振興担当者研究会	9月11日(木)～12日(金)	福島県支部	各支部10
⑥地区長会議	令和8年1月28日(水)	福島県支部	副地区長等27

13 会計報告

① 令和7年度一般会計歳入歳出決算報告

福島県支部

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
社 資 収 入	264,294,439	災 害 救 護 事 業 費	29,220,941
補助金及び交付金収入	3,865,072	社 会 活 動 費	69,419,191
繰 入 金 収 入	758,460	国 際 活 動 費	1,626,460
貸付金償還金収入	6,660,000	指定事業地方振興費	4,558,460
雑 収 入	3,682,179	地区分区交付金支出	42,120,730
前 年 度 繰 越 金	74,099,437	社 業 振 興 費	25,686,440
		基盤整備交付金・補助金支出	1,070,000
		償 還 金 支 出	6,660,000
		積 立 金 支 出	18,972,066
		総 務 管 理 費	42,017,116
		資産取得及び資産管理費	15,215,399
		本 社 送 納 金 支 出	38,120,396
計	353,359,587	計	294,687,199
		収 入 支 出 差 引 額	58,672,388

② 令和7年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告

福島赤十字病院

収益的收入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
医 業 収 益	7,956,253,451	医 業 費 用	7,817,649,020
医 業 外 収 益	553,314,875	医 業 外 費 用	76,803,366
医療社会事業収益	1,586,458	医 療 奉 仕 費 用	125,321,333
付 帯 事 業 収 益	41,780,186	付 帯 事 業 費 用	30,449,856
特 別 利 益	113,745	特 別 損 失	8,681,585
計	8,553,048,715	計	8,058,905,160
		収 入 支 出 差 引 額	494,143,555

資本的收入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
固 定 負 債	146,015,000	固 定 資 産	223,455,143
そ の 他 資 本 収 入	590,018,582	借 入 金 等 償 還	512,578,439
計	736,033,582	計	736,033,582
		収 入 支 出 差 引 額	0

14

日本赤十字社福島県支部役員名簿

(令和8年7月1日現在)

役職名	氏 名	公 職 名	役職名	氏 名	公 職 名
支 部 長	内堀 雅雄	福島県知事	評 議 員	瓜生 睦子	本宮市保健福祉部長
副支部長	佐藤 宏隆	福島県副知事	//	押山 利一	大玉村長
監査委員	横山 克英	会津若松市地区有功会副会長	//	澤村 和明	平田村長
//	菅野 裕之	元福島県保健福祉部長	//	坂本 浩之	三春町長
//	小野佐重喜	元東邦銀行常務執行役員	//	高橋 廣志	西郷村長
本社理事	飯間香保子	赤十字奉仕団指導講師	//	宮田 秀利	塙町長
代 議 員	飯間香保子	赤十字奉仕団指導講師	//	佐藤 淳一	磐梯町長
//	濱田 幸政	相馬地方有功会長	//	杉山 純一	会津美里町長
//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長	//	馬場 一久	南会津地区有功会副会長
//	野崎 洋一	元日赤県支部事務局長	//	濱田 幸政	相馬地方有功会長
//	山崎 久夫	郡山市社会福祉協議会副会長	//	鈴木 愛子	広野町赤十字奉仕団委員長
//	安澤 莊一	白河赤十字奉仕団委員長	//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長
評 議 員	後藤 孝信	福島市健康福祉部長	//	安斎 康史	福島民報社代表取締役社長
//	阿部 隆	福島市地区有功会監事	//	高野 武彦	福島県社会福祉協議会副会長
//	飯沼 育子	福島市湯野赤十字奉仕団委員長	//	野崎広一郎	福島民友新聞社代表取締役社長・編集主幹
//	松田 早苗	福島希望赤十字奉仕団委員長	//	穂積 浩	青少年赤十字福島県指導者協議会長
//	櫻井 恭子	会津若松市健康福祉部長	//	平栗 辰也	福島県赤十字安全奉仕団委員長
//	酒井 紹雄	会津地区青少年赤十字賛助奉仕団顧問	支部参与	菅野 俊彦	福島県保健福祉部長
//	太田 健三	郡山市社会福祉協議会長	//	長尾 憲宏	福島県保健福祉部保健福祉総務課長
//	佐久間喜重	郡山市献血推進協会会長	//	本多 博	福島県保健福祉部社会福祉課長
//	鈴木 薫	郡山市保健福祉部長	//	新妻 亮直	福島県保健福祉部薬務課長
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長	//	細川 了	福島県危機管理部長
//	荒川 正勝	いわき市社会福祉協議会長	//	筋内 良次	福島県危機管理部災害対策課長
//	佐々木 篤	いわき市保健福祉部長	//	鈴木 竜次	福島県教育委員会教育長
//	佐々木とも子	平地区保健福祉センター所長	//	高橋 浩一	福島県教育庁政策監
//	油座 順子	いわき方部赤十字奉仕団連絡協議会会長	//	遠藤 裕一	福島県教育庁社会教育課長
//	小峰由紀子	白河市保健福祉部長	//	佐藤 敏宏	福島県教育庁参事兼義務教育課長
//	板橋 圭寿	須賀川市福祉部長	//	星 光政	元日赤県支部事務局長
//	志田 公司	喜多方市社会福祉協議会長	//	谷口 幸子	元日赤県支部事務局長
//	武澤美保子	相馬市社会福祉協議会次長	//	高萩 秀則	元日赤県支部事務局長
//	遠藤 吉次	二本松市社会福祉協議会副会長	//	太田 久雄	元日赤県支部事務局長
//	渡辺 庄二	田村市保健福祉部長	//	穴沢 正行	元日赤県支部事務局長
//	村上 勇一	南相馬市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	//	野崎 洋一	元日赤県支部事務局長
//	権藤 貴郎	伊達市健康福祉部長	//	篠木 敏明	元日赤県支部事務局長

資料編

令和7年度日本赤十字社福島県支部現勢

(令和8年3月31日現在)

■沿革

明治22年(1889) 6月…日本赤十字社福島県委員部発足
 明治27年(1894) 1月…福島県委員部を福島支部と改称
 昭和18年(1943) 8月…福島療院開設
 昭和19年(1944) 8月…福島療院を福島赤十字病院と改称
 昭和27年(1952) 10月…日本赤十字社福島県支部と改称
 昭和37年(1962) 2月…福島赤十字病院移転新築
 昭和46年(1971) 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
 昭和46年(1971) 4月…福島県赤十字血液センター開設
 昭和56年(1981) 4月…福島県会津赤十字血液センター開設
 昭和61年(1986) 4月…福島県いわき赤十字血液センター開設
 昭和63年(1988) 11月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所開設
 平成10年(1998) 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
 平成10年(1998) 4月…福島県赤十字血液センター移転新築
 平成11年(1999) 11月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所開設
 平成13年(2001) 9月…福島県赤十字血液センター原町供給出張所開設
 平成18年(2006) 7月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所移転(リニューアル)
 平成23年(2011) 11月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
 平成24年(2012) 3月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所移転
 平成27年(2015) 6月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
 平成29年(2017) 2月…福島県赤十字血液センター郡山駅前出張所移転
 平成31年(2019) 1月…福島赤十字病院移転新築開院

■社員……………(個人) 3,481名、(法人) 945法人

■評議員……………39名

■役員 支部長 内堀 雅雄 副支部長 佐藤 宏隆
 監査委員 3名 参 与 17名

■施設及び職員

施設名	所在地	電話番号	職員数
日本赤十字社福島県支部	〒960-1197 福島市永井川字北原田17	024-545-7997	15名
福島赤十字病院	〒960-8530 福島市八島町7-7	024-534-6101	612名
福島県赤十字血液センター	〒960-1198 福島市永井川字北原田17	024-544-2550	62名
福島県赤十字血液センター会津出張所	〒965-0003 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-6	0242-24-6650	16名
福島県赤十字血液センターいわき出張所	〒970-8044 いわき市中央台飯野五丁目1-1	0246-29-5624	18名
郡山駅前出張所(郡山駅前献血ルーム)	〒963-8002 郡山市駅前一丁目6番10号	024-925-2638	17名
福島県赤十字血液センター郡山供給出張所	〒963-8044 郡山市備前館一丁目132番地	024-927-5199	9名
福島県赤十字血液センター相馬供給出張所	〒976-0152 相馬市栗津字栗津18番地7	0244-35-6066	5名

■ 県市町村組織

	合計数	郡	市	町 村
地 区	19	6	13	—
分 区	108	—	62	46
計	127	6	75	46

■ 災害救護

救護班・救護員	8班・319名	
無線局	基地局 2局、移動局 51局	
救援車両	救急車	支部1台、病院2台
	医師派遣用自動車	支部1台、病院1台
	災害救援車	支部8台、病院1台
救援物資 (在庫数)	毛布	5,126枚
	バスタオル	2,424枚
	緊急セット	2,892個
	安眠セット	472個
	タオルケット	889枚

■ 医療事業

施 設 名	福島赤十字病院		
診 療 科・病 床 総 数	26科 286床		
患 者 数	入院	87,445名／1日平均	240名
	外来	119,446名／1日平均	497名

■ 血液事業

献 血 者 数		血液製剤供給 (200mL換算)	
成 分 献 血	20,695名	赤 血 球 製 剤	99,858単位
400mL 献 血	49,844名	血 漿 製 剤	27,012単位
200mL 献 血	2,471名	血 小 板 製 剤	107,060単位
合 計	73,010名	合 計	233,930単位

■ 青少年赤十字

	加盟校数	メンバー数
幼 稚 園	12校	299名
小 学 校	368校	67,257名
中 学 校	197校	35,143名
高 等 学 校	32校	4,105名
義務教育学校	10校	2,351名
特別支援学校	5校	416名
専 修 学 校	1校	110名
合 計	625校	109,681名

■ 赤十字奉仕団

	団 数	団員数
地 域	104団	7,730名
青 年	4団	137名
特 殊	34団	1,080名
合 計	142団	8,947名
指 導 講 師	9名	

■ 講習・防災セミナー普及活動

	指 導 員	受講者数
救 急 法	109名	6,683名
水 上 安 全 法	15名	2,192名
幼 児 安 全 法	39名	756名
健康生活支援講習	26名	615名
防 災 セ ミ ナ ー		6,251名
合 計(重複除く)	189名	16,497名

■ 看護師養成

学 校	学 生 数
日本赤十字東北看護大学	3名
日本赤十字看護大学	0名
日本赤十字北海道看護大学	1名
合 計	4名

■ 国際活動

第一ブロック 支部参加事業	総 額	6,000,000円 (868,000円)
	救急法普及支援事業 ラオス	1,500,000円 (217,000円)
	青少年赤十字海外支援事業 パヌアツ	1,500,000円 (217,000円)
	気候変動等レジリエンス強化事業 ルワンダ	1,500,000円 (217,000円)
	気候変動対策事業 アフガニスタン	1,500,000円 (217,000円)

※(内は福島県支部の負担金額)

～あなたの思いを赤十字へ～

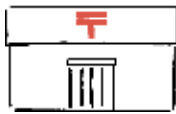
日赤福島県支部は、国や県からの補助金等を受けずに、ご寄付いただいた活動資金で組織を運営し、事業を行っております。

赤十字へのご寄付には税制上の優遇措置があるほか、表彰制度を設けております。

また、遺贈・相続財産のご寄付も承っております。ご案内パンフレットをお送りしておりますので、ご希望の方は組織振興課（☎024-545-7998）までお問い合わせください。



お住まいの地域でのご協力のほか、次の方法でもご寄付を受け付けています

銀行・郵便局窓口で  専用の振込用紙（振込手数料無料）をお送りいたしますので、お電話（組織振興課：024-545-7998）または福島県支部ホームページ内お問い合わせフォームよりご連絡ください。	口座引き落としで  2次元コードより申込書をダウンロードし、必要事項ご記載のうえご郵送ください。ご寄付の頻度（毎月・年1回など）や引き落とし月がご選びいただけます。	クレジットカード・Amazon Payで  2次元コードからの登録により、クレジットカードやAmazon Payでご寄付いただけます。ご寄付の頻度（毎年・毎月・今回のみ）がご選びいただけます。	スマホアプリで  2次元コードよりスマホアプリをダウンロードして、ご本人様の情報を入力後、募金アイコンから日本赤十字社へご寄付いただけます。	遺贈や相続財産によるご寄付も承っています  日本赤十字社に寄付した財産は、相続税がかかりません。ご案内のパンフレットをお送りしておりますので、組織振興課までお問い合わせください。
---	--	--	---	---

表彰制度のご案内・税制上の優遇措置について

特別社員

称号付与通知書

金色バッジ

記念品(三角巾入り赤十字ポーチ)

一時又は数回(10年以内)に2万円以上のご協力を下さった方

支部長感謝状

感謝状

一時又は累計で10万円以上20万円未満のご協力を下さった方

銀色有功章

桶

略章

一時又は累計で20万円以上50万円未満のご協力を下さった方

金色有功章

章記

略章

男性用

女性用

勲章

一時又は累計で50万円以上のご協力を下さった方

社長感謝状

感謝状

金色有功章受章後のご協力が50万円に達した都度
(分納額の合算可)

※年間100万円以上のご協力については、国の表彰（厚生労働大臣感謝状、紺綬褒章）がございます。詳しくは当支部までお問合せください。

●日本赤十字社への社費や寄付金に適用される税制上の優遇措置(概要)

納入者区分	区分	関係根拠法令	適用期間	措置の内容
個人	所得税の控除	所得税法第78条第2項第3号	通 年	寄付金の全額（ただし、上限は寄付者の年間所得総額の40%まで）から2千円を差し引いた額が、寄付者の年間所得総額から控除されます。
	個人住民税の控除	地方税法施行令第7条の17第3号	通 年 （募集金額上限に達した時点で終了）	寄付金の全額（ただし、上限は寄付者の年間所得総額の30%まで）から2千円差し引いた額の10%が寄付者の住民税額から控除されます。（居住地の都道府県支部に寄付の場合のみ適用）
	相続税の非課税	相続税特別措置法第70条	通 年	寄付した相続財産の価格は、相続人の納めるべき相続税の課税価格に算入されません。
法人	法人税の控除（指定寄付金）	法人税法第37条第3項第2号に基づく財務省告示	4月～9月 （募集金額上限に達した時点で終了）	寄付金の全額が、法人の寄付金損金算入限度額にかかわらず損金の額に算入されます。
	法人税の控除（特定公益増進法人に対する寄付金）	法人税法第37条第4項	通 年	通常の寄付金の損金算入限度額とあわせて、別枠で算出した特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額が損金の額に算入されます。

日本赤十字社 福島県支部

〒960-1197 福島市永井川字北原田17

☐総務課	☎(024)545-7997	☎(024)545-7923
☐組織振興課	☎(024)545-7998	☎(024)545-7924
☐事業推進課	☎(024)545-7996	☎(024)545-7923

ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima>